2—339

島田三郎・安部磯雄監輯

廓清

第三巻第九號

主張　社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

目次

▲廢業娼妓二十五人……救世軍大佐　山室軍平

▲藝妓亡國論……早大教授　平沼淑郎

▲日本の藝妓と獨逸の注目……伯林時報

▲青年と性慾問題……青年會同盟幹事文學士　小松武治

▲間違つた婦人觀……神田高等女學校長　竹澤里子

▲醜業者も鬼に非ず……元長崎控訴院檢事　宮腰信次郎

▲警視廳第三部長を訪ふ……記者

▲百燭光の照魔燈……記者

▲嬰兒の育て方……婦人記者

▲長壽の祕訣……伯爵　大隈重信

▲劣惡文學の流行……杢太夫

東京　廓清會本部　發行

「藝妓」問題大演說會

「藝妓」とは何ぞや、藝を賣るといふは表面の事にして、實は卽私娼に非ずや。これ極めて明白なる事實也。而も彼は富貴を籠絡し、權門に纒繞し、社會の上層より一世を惑亂して、浮華と虛榮との源泉となり、風教を攪拌し、子女を蠱毒する點に於て、遙に公娼に過ぐるものあり。今や濁流奔放、擧世滔々として之が渦中に陷沒せんとす。帝國の前途は岌々乎として殆矣、今の秋に於て策を講ずるなくんば、臍を噬むも及ばんや。蓋し藝妓問題は公娼制度と共に刻下の一大社會問題、人道問題たらずんばあらず、廓淸會は立黨の精神より、茲に此問題に對して宣戰を布告し、敢て火蓋を切らんとす、乞ふ來りて我第一聲を聞け

◉時日 九月廿三日（秋季皇靈祭前夜、火曜）午後六時半

◉場所 芝區三田四國町（芝園橋停留場）統一教會

△非「酌はたぼ」論……………新佛教 高島米峰氏

△演題未定……………早大教授 內ケ崎作三郞氏

△藝妓を救へ……………鐵道青年會理事 益富政助氏

△文明の進步と自由權の制限……………早大教授 安部磯雄氏

△古代希臘の藝妓……………早大教授 平沼淑郞氏

▲其他會長島田三郞氏、山室軍平氏外數氏目下交涉中▼

本會に所用の方は
東京神田區美土代町三丁目三番地
廓淸會本部
電話本局四九四〇番
宛に願上候

會費の納入

會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

（注意）前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名義にして廓淸會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓淸會費」と明記ありたし。

大正二年九月十四日納本　一部定價金六錢
大正二年九月十五日發行（每月一回十五日發行）
編輯兼發行人　神田區三河町一丁目十四番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓淸發行所

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廢業娼妓二十五人

救世軍書記長官
廓清會評議員　山室軍平

（一）

廢業娼妓の身の上に就て、少しく秩序のある研究をして見たいといふのは、私が二三年來の宿志であつた。けれ共貧乏暇なく、いつも仕事にばかり追はれて居つて、未だに之を果すことが出來ない。處が先頃『廓清』の記者から何か書いて送る樣にといふ御申込を受け、好い機會であるから、せめては此際平生の志を幾分でも實行して見たいと、乃ち其調査に取かゝつたのである。

一昨年の春、吉原の大火以來、救世軍の手に由て廢業した娼妓だけでも、其數が既に百人を越して居るのであるから、せめて百人、若し然うでなくば、少く共五十人の廢業娼妓に就ての研究をと思ふたが。どうも巧く調べがつかないので。此度は唯二十五人だけに就ての研究を發表し、何れ將來いつか好き機を得て、も少し完全な御報告を申上げたいと思ふのである。

（二）

私は爰に自分の机の上に、近頃救世軍の手に由て廢業したる娼妓、二十五人の源氏名、及び本名の記錄を置て居るのである。併しながら、之を發表するのは、寧ろ差控へた方が可からうと思ふ。唯先づ彼等が何れの遊廓から廢業して來たものかといふ事丈を掲ぐる事と致したい。即ち左の如し。

一、吉原	十二人	一、洲崎	五人
一、大阪	三人	一、京都	一人
一、品川	一人	一、新宿	一人
一、北千住	一人	一、三浦三崎	一人

以上合計二十五人

私は今以上合計二十五人の廢業娼妓の身の上に就き、何くれと參考になりさうな事柄を調べて見たいと考へる。

（三）

二十五人の廢業娼妓は、如何なる地方から出て來たものであるか。其原籍地は如何。

一、東京	六人	一、埼玉	四人
一、新潟	二人	一、三重	二人
一、愛知	一人	一、千葉	一人
一、宮城	一人	一、滋賀	一人
一、岐阜	一人	一、奈良	一人
一、福島	一人	一、山形	一人
一、栃木	一人	一、神奈川	一人
一、長野	一人		

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

東京及び之に最も近い埼玉縣から出て居る娼妓が多數を占めて居るのは、然るべき事として、新潟、三重地方が重なる娼妓の產出地である事實は、此小さい表の中にも之を觀て取ることが出來る。此表では愛知が一人しかないけれ共、最少し多數を取調べたならば、該地方からも亦多人數の醜業婦を出して居る事實が、必ず數字の上に現はれた筈かと思ふ。

（四）

次に彼等の族籍は如何といふことを取調べると。

一、平民　二十三人　一、士族　二人

と、此ういふことになつて居るのである。

（五）

然らば二十五人の廢業娼妓の學校敎育は如何といふに、こゝに私共は少からぬ敎訓を見出す事が出來る。

一、高等卒業　一人　一、高等二年　一人
一、高等一年　一人　一、尋常四年　二人
一、尋常三年　四人　一、尋常二年　一人
一、尋常一年　二人　一、不明　一人
一、學校敎育皆無　九人　一、手紙だけ書く　一人
一、假名だけ書く　二人

右の中、終りの三項の全く學校敎育の恩惠に與からざる者が十二人あることに注意したい。二十五人の中の十二人、殆んど半數は更に學校に入學して居ないのである。唯其二人だけが奉公の餘暇などに獨習して、一人は手紙が書ける樣になり、今一人は假名だけ書ける樣になつたものと見える。どうせ一通りの敎育があり、幾らか物の道理の辨へらるゝ婦人ならば、彼あして金に換へて身を賣り、格子窓の內へ動物園の獸類の如く陳列せられ、人の玩弄物になつた上に、不法なる樓主の爲すが儘に身を任して居る樣な生活が營まるゝ筈のものではない。例外は無論あらう。併し乍ら日本にもつと敎育が普及したならば、大方誰も娼妓として、少くとも現在の制度の下に滿足するものは無くなる日が、近づきつゝあるのではあるまいか。

なぜ尋常三年、四年といふ處になつて、特別に廢學するものが多いのか。察するに其年頃、卽ち十一二歲にもなれば、家に置て子供の守をさせても、又は機屋に送つても、或は他人の家に奉公させても、多少の便宜があるから。丁度其頃に廢學するものが、多いのではあるまいか。現に右の中尋常四年で廢學した一人の少女は、十二歲で藝者屋の三味線持に奉公し、それから段々墮落の道に深入して居る事實を發見するのは、寒心の至である。

（六）

彼等は如何なる宗敎を奉ずるものか、又彼等の家庭は如何なる宗敎に屬して居るであらうか。此問題に就て取調べた結果は左の如くである。

一、佛敎と言ふもの　一人　一、眞宗と言ふもの　一人
一、法華宗　一人　一、大師樣　一人
一、普通の信仰　一人　一、不明　二十人

此點に於ては、救世軍が耶蘇敎だといふので、遠慮して分明なる返事をし兼ねたものもあらう。併しながらそれにして

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

も彼等が概して據るべき信仰なき人、又明確なる信念のない家庭の産物であるといふこと丈は、此簡單なる數字の間にも發見し得べき事實であると考へる。繰返して言ふ、無信仰の家庭は娼妓出産地である。又不信仰なる人物が概ね不義淫行の張本人になるのであると。

(七)

彼等は何か腕に職業のある婦人であつたか。二十五人の廢業娼妓の中には今日の活計の助けになる樣な、一人前の婦人の心得のある者が幾人居つたか。これが其次に考へたい問題である。

取調の結果は左の如し。

一、多少裁縫の出來るもの	三人
一、機業の心得あるもの	三人
一、裁縫の稽古に行きたることあるもの	二人
一、三味線を一年、裁縫を三年習ひし者	一人
一、三味線を七歳より二十歳迄習ひしもの	一人
一、機業、紡績、養蠶を知るもの	一人
一、ミシン針打、三味線、踊り	一人
一、海軍帽子製造	一人
一、何等の技藝もなきもの	十一人

二十五人の中十一人は全く無藝無能である、縫針の一手も心得ぬのであるから、それが何んぞの機會に娼妓になるのは如何にもありさうなとである。殊に今日の如く娼妓は公認せられたる一箇の職業であつて、それが何の苦勞も、面倒もなく、直ちに從事せられるといふのであれば。恥を知らざる人の子が、誤まられて此ういふ境涯に墮ちて行くのに、不思議はないことかと思ふ。

右の中、三味線を一年、裁縫を三年習ふたといふ少女は、學校は高等一年で退學し。十四歳で料理屋の雇女となり、間もなく暫時家に歸り。十六歳の時今一度前と同じ料理屋へ店番といふ名義で雇はれたが、其時から淫を鬻ぐことを始めたのださうである。

今一人の七歳から二十歳迄三味線を習ふたといふ少女は、尋常一年にて學校は廢めてしまひ、十六の年には早くも藝妓になつて居るのである。

又ミシン針打と共に、三味線と踊との稽古をした少女は如何といふに、これは又小學校を尋常三年にて退學し、十八歳で茶屋女になつて居る。

斯くして一方に有用なる技藝、又は學問を敎へることの缺乏する反對の方面に、多く碌でもないことを敎へる誤りたる家庭敎育の結果は、相率ゐて其子女を穢れたる生活、行動に陷らしめるのである。大なる警戒を要する事柄ではないか。

(八)

廢業娼妓の親は、どんな職業を營んで居つたか。又彼等家庭の生活の狀態は何ういふ風であつたか。

一、農業	六	一、魚屋	二
一、木箱製造	一	一、家根屋	一
一、洋服屋	一	一、小使	一
一、むしろ	一	一、駄菓子屋	一
一、瀬戸物職工	一	一、うどんや	一
一、銅屋	一	一、前警察署員	一

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

一、前役場員　一　一、保險會社員　一
一、鹽物屋　一　一、無職　二
一、不詳　二

而して彼等自らの言ふ所に由れば、其家庭の生活狀態は實に左の如くであつたとのことである。

一、貧困者　十二　一、極貧者　一
一、普通　一　一、貧には非ず　四
一、不詳　七

言ふ迄もなく、生活の困難が直接間接に、彼等を驅つて娼妓とならしめたことは、想像するに難くない。娼妓を出す樣な家庭は概して貧困であるのは、誰にもうなづかるゝ所であれど。同時に彼等の親の不心得が彼等をして、斯かる淺ましい世渡をなすに至らしめた事情も亦決して、見逃すことは出來ない。

右の數字の中。農に從事するもの六人の中、其一人は仕事が嫌ひで、田畠を其荒るゝが儘に任せ、遊んでばかり居たといふことである。又鹽物商を營んだ男は、決して生活に困る樣な家柄ではなかつたが、本妻の外に妾を蓄へ。又賭事に手を出して身代をつぶし、其れ等の結果、家が瓦解するに至つたのださうである。又無職業者二人の中の一人は、借家の五六軒も持て居たのを、放蕩の爲に皆失ふたのだといふことである。警察や役場に出て居つた人といへば、娘を賣物にしてならぬ位の事は、辨へて居るべき筈であるに、然ういふ人々が此表の中にあるのは、如何に彼等の間に道念の缺げて居るかを示すものである。兎もあれ、親の不心得が子に及ぼす影響の大なる事は、今一度此表の中にも之を認めらるゝわけである。

（九）

序に廢業娼妓の父と酒との關係を調べて見た。最も中には早く其父を喪ふたものも少なくないので、細かい事の分らぬのが多い。今其分つた丈を擧ぐれば左の如し。

一、大酒家　二人　一、酒好き　二人
一、少し飮むもの　二人　一、酒を好ます　四人
一、不詳　十五人

即ち至つて不完全な數字ではあれど、こゝに掲げた處に由て見れば、取調べのついた中では、十分の六が酒を飮む事實を發見し得るのである。酒は有ゆる禍の手引である。『酒飮みが死んで墮ちゆく地獄の狀を此世で見たいと思ふならば。酒飮みの家庭に行つて見よ』と、いふことがあるのも、思ひ合はさるゝ次第である。

（一〇）

廢業娼妓と、其兩親の有無を調べて見て、今更の樣に驚かされるのは、幼ない時に兩親、又は片親を喪ふて、早く孤兒となるのが、どんなに不仕合なものかといふ事である。不良少年も、犯罪人も、浮浪徒も、凡そ世の中に厄介をかけることの多い人物は、概して幼ない間に其兩親若くは片親を失ふた者に多い。而して私共は今亦こゝに、娼妓になる樣な婦人の多數が、幼少の時に孤兒となつたものだといふ事實に出あふて居るのである。

二十五人の廢業娼妓と其兩親の有無の關係は次の如し。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

一、父母共に存するもの　五人

一、父母共になきもの（尤も一人は養父母を有す）　六人

内、二人は十歳以下にて兩親を喪ふ

三人は十歳以下にて片親を喪ふ

一人は十九歳以後に兩親を喪ふ

一、母ありて父なきもの（尤も一人は繼父を有す）　十人

内、五人は十歳以下にて父を喪ふ（其二人は幼時早く父に別る）

二人は十五歳以下にて父を喪ふ

一人は二十歳以下にて父を喪ふ

一人は二十歳以上に至りて父を喪ふ

一、父ありて母なきもの　四人

内、二人は幼時母に別る

二人は十五歳より二十歳の間に母を喪ふ

尙念の爲に、前の表をつゞめて言へば、

一、十歳以下にて兩親を喪ひしもの　二人

一、同じく十歳以下にて片親を喪ひしもの　十人

即ち二十五人の廢業娼妓の中十二人は、十歳に達せずして早く既に孤兒となつて居つたものである。少く共片親を喪ふて居つものである。又

一、十五歳迄に少く共片親を喪ひしもの　十四人

一、十五歳の後迄兩親のありしもの　十一人

即ち彼等の大半は十五歳に達する迄に、早くも父と母との揃ふた顔を見ることの出來ない境涯に、人となつたものである。亦憐れむべきではないか。

（一一）

ソロモンの箴言に『其家を離れてさまよふ人は、其巣を離れてさまよふ鳥の如し』といふてある。廢業娼妓二十五人の身の上を調べて見て、何より氣の毒なるは、彼等が早くから其家庭を離れてさまよふて居る事實である。彼等は其巣を離れてさまよふ鳥の如く、其家を離れてさまよふ者である。而して其爲め憐れにも狡猾なる狩人の網にかゝり、其喰物となつたもの共である。左に掲ぐるは、彼等がいつ迄其家庭に留つて居たかといふことを示す表である。又は彼等が最初に其家を離れた年齡を示す表である。と言ふが可いかも知らぬ。

一、四歳迄實家に在り七歳迄母の再嫁先にあり　一人

一、六七歳迄家に在りしもの　一人

一、八歳迄家に在りしもの　五人

一、九歳迄　一人

一、十二歳迄　二人

一、十四歳迄　一人

一、十五歳迄　三人

一、十六歳迄　三人

一、十七歳迄　二人

一、十八歳迄　一人

一、二十歳迄　一人

一、二十一歳迄　一人

一、二十二歳迄　一人

一、不詳　二人

彼等の三分一迄は、十歳にならぬうちに早く其家庭をさまよひ出でたるものである。又三分二迄は十六歳にならぬ前に早くも浮世の荒浪の中に投げ出されたるもの共である。彼等が落ぶれて娼妓となるに至つた筋道も、こゝに大きに思ひ合はさるゝ所があるではないか。

（一二）

然らば彼等は家を出て何になつたか。彼等が其家庭を離れて最初に從事した務は何んであつたか。

一、奉公したるもの	十四人
内、七歳より奉公せしもの	一人
八歳よりのもの	一人
九歳よりのもの	二人
十二歳よりのもの	二人
十三歳よりのもの	一人
十四歳よりのもの	一人
十五歳よりのもの	二人
十六歳よりのもの	一人
十七歳よりのもの	二人
二十二歳よりのもの	一人
一、藝妓となりしもの（十六歳）	一人
一、酌婦となりしもの（十七歳）	一人
一、機織となりしもの（十六歳）	一人
一、絲とり工女となりしもの（十五歳）	一人
一、叔父の家に行きしもの（十六歳）	一人
一、知人の家に行きしもの（二十一歳）	一人
一、夫に嫁せしもの（二人共二十歳）	二人
一、家庭に留りしもの	一人
一、不詳	二人

右の中、十二歳で奉公した一人は藝者屋へ行つたのである十四歳で奉公した一人は料理屋である。不詳二人は多分家庭に留つて居つたのであらう。

（一三）

然らば彼等が娼妓になる直ぐ前には何をして居つたか。

一、料理屋奉公（酌婦）	六人
一、旅宿奉公	一人
一、機織	三人
一、藝妓	一人
一、百姓	一人
一、普通の家へ奉公	一人
一、知人の家に在りしもの	一人
一、家庭にありしもの	七人
一、夫の家に在りしもの	三人
一、不詳	一人

右の中、夫の家に在りしもの三人の、其一人は夫が入獄した爲めに娼妓になり、他の二人は夫に別れて直ぐに娼妓になつたのである。

此表を前項の表と比べて先づ目につくのは。彼等が最初に家を離れた時よりも、茶屋奉公、宿屋奉公、藝妓といふ樣な浮た家業に從事するものゝ數が、めつきり殖えて居ることである。彼等は堅氣な奉公や、絲とり、機織などを止めて、そろ〳〵茶屋奉公をなし、茶屋奉公から軈て娼妓にならうとして居るのである。

今一つ、目立つて見えるのは、此時代になつて案外に、其家庭に留まるものゝ多いことである。これはそれ迄に一度嫁入して不縁になつたものや、奉公、機織などに行つて居つたのが歸つて來たのや、さういふ者の集まつた數である。さり

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

と別に腕に一定の職業のある者といふは少なく、機業などは貧家で單獨に營むには便利の好くない仕事であり、又彼等は急に良縁を求めて人に嫁する便宜の少ない娘達であるからそこへ家の貧苦だとか、人買の上手口だとか、いふ樣なものが加はつて、彼等を娼妓に誘ひおとしたものと見ねばならぬ。

（一四）

二十五人の廢業娼妓の中、娼妓になる前に夫を持つたものが幾人あるかと、調べて見た處が、實に左の如き事實を發見した。

一、結婚せざりしもの　十五人
一、結婚せしもの　十人
　内、正式に結婚せしもの　六人
　所謂内縁の夫婦たりしもの　四人

然らば此夫に嫁したる十人の婦人は、如何にして其夫に別れて、娼妓となるに至りしかといふに、其事情は次の如し。

一、夫と不和にて別れしもの　二人
一、姑や夫の姉妹と衝突して別れしもの　二人
一、夫の死亡せしため　二人
一、夫の放蕩の爲め　一人
一、夫の入獄の爲め　一人
一、妻の不品行の爲め　一人
一、別段の理由なく夫婦別れをなせしもの　一人

妻の不品行の爲といふのは、何んでも其姉の嫁して居つた先へ、姉の死後妹が今一遍嫁したのである。其わけは妻の家が夫の家に對して義理があるからで、當人の氣の進まないのを無理に嫁入させたのださうである。さうすると其婦人は他に情夫を作つたので、二人目の兒供を妊娠中、夫婦別れをしなければならぬことになつたのである。最後の別段の理由なくして夫に別れた婦人は、妻が娼妓になつて後、夫が折々通ふて居つたさうである。其くせ妻が遊廓を飛び出して縋つて行つた時には、別に妻子を持て、新しい家庭を造つて居り氣の毒だからといふて小使錢を呉れて送り出されたといふことを聞いた。

夫と不和で別れた後に娼妓になつた中の一人は、婿を迎へて居つた、其婿に出て行かれたので。これは某私立大學の政治科の卒業生であつたさうである。

斯くて二十五人の中、曾て夫を持つた十人の婦人は、結婚に失敗した結果、自棄氣味にて娼妓になつた趣もあるやに考へられる。結婚問題の失敗は人を誤ること最も多きものである。殊に青年婦人には取り返しのつかぬ傷手を負はすものであれば、氣をつけねばならぬ事である。

（一五）

彼等は何が爲に身を墮して娼妓とはなつたであらうか。これは廢業娼妓を研究するに當りて、最も大切なる問題であるとはいへ、これは又非常に複雜なる問題である。卽ち前の諸項に述べたる事柄の如きも、一つとして彼等が何故娼妓となつたかといふ問題に關係しないものはない。さり乍らこゝに改めて今一度此問題を持ち出したわけは。中にも彼等に取つて、最大、最强、而して又最後の原因は、何んであつたかといふ事を攻究したいからである。而してそれは大略左の如く

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

である。

一、家計困難の爲め　五人
一、親權者の心得違の爲め　二人
一、不幸なる夫婦關係の爲め　三人
一、子を養ふ爲め（內一人は先づ酌婦となり後轉じて娼妓となりしもの也）　三人
一、酌婦より轉じて　五人
一、藝妓より轉じて　一人
一、旅商の雇女より轉じて　一人
一、娼妓生活を羨みて　一人
一、不詳　四人

今少しく之を說明すれば、最初の家計困難の爲といふ五人の中に、二人は其戶主が他人の證文に保證人として捺印し、其爲に債務を負ふて當惑の餘り、妹なり、娘なりを賣つたのである。或は少女を賣らする爲めに、此んな風にして陷れられたのかも知れない。

次に親權者の心得違の爲めといふ中の一人は、父が妾を蓄へて不身持をなし、母の死後はそれを容れて繼母としたのであると。お負けに父は又賭事に手を出し、其爲め家產を蕩盡した。すると繼母が彼女に向ふて言ふには、「私の生んだ女の子が、も少し大きければ此際藝者にでもする處だけれ共」と。斯くして繼子の彼女を促がして娼妓たらざるを得ざらしめたのである。又同一人の方は兩親のなき後、叔母から娼妓にせられたのである。

其次の不幸なる夫婦關係の爲めといふ三人の中、二人は離婚後自棄氣味にて娼妓になつた樣に見える。殊に其一人は兩人の飽かぬ中を、實家と嫁入先との仲たがひの爲め、無理に引裂かれたのであつた。又三人の中の一人は、夫が入獄の爲め、身の振り方に困り、娼妓になつたものである。

子を養ふ爲めに娼妓になつたといふ三人の中、二人は夫が死んだので、一人は又離婚後其子を養ふ方法に窮し、娼妓になつて里扶持を作つたのである。尤も夫に死れた中の一人には、良くない叔母が附て居り。彼女の兩親が死んだ後、彼女を引取り、幼ない時から糸とり工女にやつて其の金を手に入れ。又彼女が夫に別れ、娼妓になつて得た金の內三十圓を添へて其子を他にやらうとする時には、又其三十圓を橫奪してしまふた。そこで彼女は今一度住替をして別に金四十五圓を得、それを添へて子を他に渡したといふのである。兩親のなき後、叔母、伯父などいふ樣なものが、其遺孤を喰物にする例が世間に少なくない樣である。恐ろしいことではないか。

次に酌婦から轉じて娼妓となつた者が五六人ある。酌婦と娼妓との關係は唇と齒との關係である。最初竊かに酌婦となり、密に淫を鬻いで居つたものが。どうせ賣淫する程なら、何も法律をくゞつて、小さな田舍の料理屋などにくすぶつて居る必要はあるまい。宜しく立派に政府公認の醜業婦となり、大厦高樓の中にて、天下晴れて之をなすに如くはあるまいといふので。まるで幽谷から喬木に遷る樣な氣で、彼等は酌婦から娼妓に轉ずる樣に見える。其くせ娼妓を長く勤めた者は、又そこで修業した賣淫の實驗を他に用ゆる所がないから、今度は酌婦になつて密淫賣に從事しながら、可なり年が寄る迄、曖昧家業に從事するといふ類も少なくない樣である。娼妓と酌婦とは斯くしてまはり持に、相支持するものである。それ故今の遊廓の如き大びらな、公認の賣淫制度を絕

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

滅すれば、それが延て料理屋の酌婦に迄も影響する所が多いのは疑ない。所謂脣亡びて齒寒しといふのは其事である。此五六人の酌婦の中一人は酌婦となつたり、妾となつたりして居つた者で、或時は元大きな烟草製造業者であつた某といふ者の妾になつて居つたこともある。斯くして貧家の女子を金で弄んで、之を其家庭に近づける所謂紳士は禍なる哉。彼等の子孫は禍なる哉。亦然ういふ紳士の人中に立つことを、平氣で許して置く日本の社會は禍なる哉。

藝妓及び旅店の雇女から娼妓に轉じた者の事情も亦前の酌婦の場合と大なる差はなきものと見て可からう。

別に娼妓の生活を羨みてといふのが一人ある。これは堅氣の家に奉公して居つた女が、遊廓を見物して。娼妓が別段の仕事もせず、軟かい着物を着て、多くの男子とふざけて暮す生活を羨み、飯を炊いたり、雜巾がけをしたりするのが馬鹿らしくなつて、自ら進んで洲崎遊廓に行き。自分で其身を賣つたものである。今の樣に公娼を設けて、年中毎日實物教育的に淫行の教授をすることが、如何に氣の弱い青春の男子を傷くるかは、今更論ずる迄もなきことながら。それが亦斯く年の若い婦人を迄も害ひ。寧ろ堅氣な奉公よりも浮いた泥水家業に身を沈めたいと羨ましめる樣な、陷穽を帝都輦轂の下にさへ、幾つも設けて置くといふは、何うした間違つた世の中であるか。

最後に娼妓になつた直接の原因の不詳なる四人の婦女も大概は勞働が嫌ひで、手には一人前の仕事がなく、家は貧しい上に、自分は自墮落な性分だといふので。幸ひ政府が公認の淫賣窟があり、さういふ人間を歡迎して、風俗壞亂業に從事さする樣に出來て居るので。彼等は乃ち行て之に身を投ずるに至つたものゝ樣に見える。

以上は唯二十五人だけの廢業娼妓に就ての研究であるから、もつと數が多くなれば、もつと他に異る事情を多く見出すかも知れない。併しながら一片の骨に因て往々獸類の全體を想像することが出來る如く、以上の研究も亦大きに、一般の娼妓になる樣な女の身の上を想像せしむるに足るものが無くてはならぬ。

(十六)

彼等は幾歳の時に娼妓になつたか。取締規則に由れば滿十八歲以上の婦人でなくては、娼妓になれない規定である。一體二十五人の廢業娼妓が、最初娼妓になつたのは幾歲の時であつたか。

一、十八歲(戸籍を欺く)　二人　　一、十九歲　五人
一、二十歲　二人　　一、二十一歲　五人
一、二十二歲　三人　　一、二十四歲　一人
一、二十五歲　三人　　一、二十七歲　一人
一、不詳　三人

不詳といふのは、つひ記錄に手脫かりがあつて分らなかつたのである。數へ年十八歲の婦人が娼妓になれぬことは前に之を述べた。彼等は滿十八歲を越えねば娼妓になれぬのである。そこで一人の少女は十八歲の時に二十歲と稱し、今一人は二十二歲と稱し、戸籍を誤魔化して娼妓になつて居る。之が最初の十八歲二人といふのである。概して言へば規定の年齡になるのを待兼ねて、大急ぎで娼

妓になるもの、即ち十九、二十、二十一歳といふあたりの婦人は、これ迄茶屋奉公して居たとか、三味線の稽古をして居たとか、近所に藝者屋があつて浮いた眞似をするのを見慣れて居つたとか、いふ樣な關係の者に多い樣である。又二十二歳から二十五歳、二十七歳にして娼妓になるといふ婦人は、一度結婚して不緣になつたとか、又は家が貧くして碌な嫁入先がないとか、いふ上に又裁縫も家事も十分に出來ない樣な質の者が多い樣である。即ち年の若い間に早く娼妓になつたのは、乘り氣になつて之に投じたものが多く。後れて娼妓になつたものは、餘儀なくなつた者が多いのであらうと思ふ。

右の中、二十一歳で娼妓になつた一人はもつと早く身を遊廓に投じたが、年齡が不足で娼妓になれないので、久しくお豆どんといふことを勤め、後に本統の娼妓になつたのである。多くの貸座敷では、お豆どんの名の下に年齡の足りない少女を買ひ入れ、之に朝夕醜業を見習はせて、耻も耻廉もなく、立派な肉慾専門の婦人に造り上げ、之に由て少からぬ金儲けをするものと見える。之は私共が乾度覺えて置かねばならぬ大切なる社會問題又人道問題の一つである。

(一七)

次に私共は此二十五人の廢業娼妓に就て、彼等が最初廓に身を沈めた時の年季と、前借金の事とを調べて見ねばならぬ。年季は大概六年が普通の樣である。

一、六年	十四人	一、五年	六人
一、四年	一人	一、不詳	四人

中には自分で何年の年季であつたか知らない者もある。然ういふ愚かな婦人を相手にするのであるから、貸座敷業者は又自分勝手のことを振まひ。三年の年季だと言ひ聞かせて親許を連れ出し、來て見たら六年であつたといふ如き例は幾らもある樣である。

前借金は百圓から六百五十圓の間色々である。中には手取八十圓、身づき五十圓、計百三十圓といふ約束にて、實は手に入つた金は手取の半分、即ち唯四十圓だけであつた者もあり。又手取百五十圓といふ約束ながら、實は七十圓しか手に入らなかつた者もある。如何に多くの詐欺取財がこの間に行はれて居るかは想像の外である。

六年の年季で娼妓になつた十四人の前借金を合計すれば、金三千七百二十五圓となる。之を十四人に割れば金二百六十六圓餘となる。これが彼等の平均の前借金高である。それを年季の六で割れば、四十四圓三十錢餘となる。即ち彼等は年々此四十四圓三十錢餘の借金を濟す爲に、娼妓の業をなすものであることが分る。

「統計表に由て見れば、遊客は平均一圓宛位の金を費消する樣であるから、此れ位の負債は直ぐに拂へるのではないか」と、尋ねた處が。此社會の事情に明るい人が敎へて呉れたことは此うである。目下吉原あたりで娼妓の玉代といふものは大概四十錢である。即ち遊客は幾らの金を費ひやしたにもせよ、其娼妓に關係ある收入は唯此四十錢だけである。然るに樓主は其四十錢の内の二十錢を取り上げる。娼妓は殘金二十錢の内から紙だの、油だの、種々の物を買ひ調へ、又借金の利子を拂はねばならぬ。

借金の利子は年利一割二分である。即ち前記の平均前借金

二百六十六圓に對しては、一年に約三十二圓、一日に八錢八厘宛の利子を拂はねばならぬ。それで以て食物は毎日二回飯だけ呉れて、副食物は自分で買ひ求めさする規定であるから堪つたものではない。娼妓は所謂前借金の利子だけ拂へれば上出來で、多くの場合には病氣だとか、衣裳だとか、いふて借金が減りはしないで却つて殖える樣にのみ仕向けてある。それ故娼妓が前借金を皆濟して廢業するといふことは殆んど全然不可能の事である。唯娼妓が六七年も勤めた揚句に、樓主が恩惠的に證文を卷て、自由にしてやるといふことでもあれば格別。娼妓が自分で借金から自由になるといふことは到底出來ない話である。それを前借金が、どうの、此うのといふて、娼妓の廢業を妨害するのは、言ひ換れば、お前は一生樓主の言ふなり、死なと生るなとしろといふと同じ事である。又は樓主が散々苦役をさせた後、容貌が全く見られなくなるか、又は惡い病氣で人の前に出られなくなつて後、逐ひ出さるゝ迄辛抱して待て居ろといふのと、同じ事に當るのである。二十世紀の日本に行はるゝ奴隷賣買制度の組織は、先づ此ういふ風に出來て居るのである。これは決して此儘に棄て置かるべき事ではない。

　五年の年季の六人は、其の前借金の總額二千六百四十圓にて、即ち一人平均四百四十圓、一年分七十三圓三十錢餘に當る。今一人の四年の年季のものは、前借金六百五十圓にて、一年に割り當れば百〇八圓三十錢餘といふことになる。とても此んな大した金が拂へる筈はないから、婦人は此れ丈の金の爲に金縛に縛られ、それこそ泥棒でも、放火者でも、人殺でも、乃至道樂息子、色魔輩の、代る〲嬲り物にして、弄ぶが儘に一生涯を委ねゝばならぬ運命に捕はれたものである。而して此は今の日本で、立派に公認せられて居る一種の營業である。どういふ奇怪極まつた事であるか。

（一八）

一旦娼妓になつて後、彼等は何うい風に生活して居つたか。彼等と貸座敷との關係は何うであつたかと、調べて見るに、大略左の如し。

一、初より同じ貸座敷に留りしもの　十七人
一、田舍より都會に住替へしもの　五人
　内、府中より新宿へ　一人
　　橫須賀、川崎より洲崎へ　一人
　　山形より吉原へ　一人
　　深谷より吉原へ　一人
　　本庄より吉原へ　一人
一、都會にて他の樓へ住替しもの　三人

右の中、一人は以前橫須賀で自由廢業をなしたる娼妓にて、それが再び川崎にて同じ家業に身をおとして居ることを發見した。又他の一人は一度請出されて人の妾となり、後再び娼妓になつて居る事實を見出したのである。

　田舍の遊廓で娼妓をした者が、後都會の遊廓に移つて居るのが少なくない。之れは都會の遊廓から人買が巡回して居つて、少し顏の美しい婦人と見れば、それが素人たると、娼妓酌婦たるとを問はず、買出して來て都會の娼妓にするからである。同時に田舍で娼妓をして居る女達も、どうせ泥水に沈んだのであるから、序のことに都會に出て、一花咲かすのも

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

面白からうといふ如き、飛だ野心を起す傾きがある樣である。のみならず一つの貸座敷から他の貸座敷に住み替へるといふことは、いつでも新しい前借金を得るわけであるから。跡は野となれ、山となれ、彼等は兎も角も、斯くして復一遍幾らかのまとまつた金に有り附ける嬉さに、一も二もなく田舍から都會に出向くものと見えるのである。

同じ土地で一つの貸座敷から他に轉ずるのは、大概碌なことはない。動く度每、それに借金の高が殖えて、益々自由を得難くなるだけのことゝ見ねばならぬ。

（一九）

然らば二十五人の廢業娼妓が、其廢業を思ひ立ちたる事情は如何。彼れ等が娼妓名簿の削除を願出づるに至りたる動機は、何んであつたか。

一、情夫を慕ひて　八人
一、病身なる爲め　六人
一、前夫を慕ひて　一人
一、合意心中を果さず其儘居難くて　一人
一、無理心中を迫まられ且つ虛弱にて　一人
一、醜業が厭になりて　二人
一、不明　六人

自由廢業をする娼妓に情夫の關係ある者が多いといふて咎める人があれど、それは當然の事ではあるまいか。彼等は高尙な理想も、標準も有する人間でない。却つて朝から晩迄、唯肉慾の事をのみ考へ、言ひ、行ひ、其爲に生活する樣に仕込まれて居るものである。然ういふ婦人が幾らか深切らしい

情夫を得た時、それを慕ふて廢業して之に連添ふ樣になるのに、何んの不思議があるか。娼妓の廢業の重なる動機が、情夫の許に行くにあるのは、眞に當然の事である。却つて彼等がこれ迄の如く其愛情を多人數に切り賣る代りに、之を或一人の男子に捧げたいといふ氣になたつたのをこそ、感心してやるべき筈ではあるまいか。

とは云へこれは唯娼妓の側に就いての說であるが。それでは娼妓がそれ程迄に賴りに思ふ情夫なる者は、果してそんなに信用する甲斐のある人物かといふに、ところが甚だ怪しいのである。「大方の粹がるものは不粹者、粹でないのが人のきつ粹」で、本統に賴りになる樣な人物は、本來遊廓などに近づくべき性質のものでない。それをのこ〳〵と、馬鹿を盡しに出て來る如き人物には、末の見込のある男は先づ少ないものと見ねばならぬ。現に前の情夫を慕ふて廢業した八人の中にも、一人は遊廓を飛出すと直ぐに其情夫の處へ尋ねて行つたが。其家は立派に妻も子もある人なので、呆れてしまふ。何分行末の御相談にのつて下されといふて、救世軍にたよつて來た樣なのがある。

情夫を慕ふて廢業するものが、幾らか失望的であるに引かへ、其次の仕方なくて病身な爲に廢業を思ひ立つ娼妓は、如何にも悲慘なものである。一體彼等は人の寢る時刻に寢ず、食ふ時刻に食はず、不養生ふしだらの限りを盡し、而して何處の誰だかわけの分らぬ者を相手に、玩弄物にされて、每日を過して居るのであるから、其結果健康を痛め、病氣になる位は固より當然の事である。幸か不幸か、彼等は無智にして餘り物事を考へる力がなく、又感覺が鈍くして我が身の不仕

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

合を不仕合と感ずることが薄いから、せめてあれ位に健康が維持せられて居るのである。それでも彼等も亦人の子である。假令無智でも、愚鈍でも、つらいことは矢張つらいのである。苦しいことは矢張苦しいのである。或昔の娼妓が「思ふことつんでは崩す炭火かな。」又「夏痩せと人にこたふるつらさ哉」と、詠んだ如く。彼等が若し何うかした拍子で、一旦自分共の今の身の上が、どんなにつまらぬ、罪深い、而して末の見込のないものかといふことに心付いた日には、彼等は唯その爲にても、全く其健康をぶち毀して、半狂人にならずには居られぬ筈である。娼妓に病身なものが多いのは當然の事である。現に前の病身な爲に廢業を思ひ立つた六人の中にも、明らかに肺結核を患ふて居る者が一人あり。他の一人は又、肺尖カタル、梅毒性子宮痙攣にて、弱り切つて居る所へ、無暗にモルヒネ注射をせられ、其中毒にて三日にあげず人事不省に陷つて居つた者がある。加之病身なる娼妓は勤めが出來ぬ上に、醫藥の料として日に〳〵借錢の高を加へられるので。其點から言ふても、病身な娼妓が殊に廢業を思ひ立つのは、最もの事とうなづかるゝ次第である。

前夫を慕ふて廢業した一人は、廢業して行つて見ると、前夫には既に定まる妻もあり、子もあることを發見したといふことである。亦憐れむべきではないか。

次に自分が病身な上に借錢があつて困つて居る處へ、丁度同じ樣に借金で首の回らぬ一人の男がやつて來て、互に其身の上に同情し合ひ。所謂合意心中を企て、手拭で首をくゝつたけれ共、果さなかつた娼妓がある。とても其儘そこに留まることは出來にくいので、願ひ出して廢業したのであつた。

其反對に又、遊客から無理心中を迫まられて恐ろしくなり、且つは平生身體の虚弱なことを悲み、廢業を思ひ立つたものも一人ある。

今一種の醜業が厭になつて廢業を思ひ立つた二人の娼妓に至つては、眞に感心の至である。彼等は兎角蛆蟲が臭きに居て、其臭きを知らぬ樣な境涯に身を置きながら、それでも醜業の恥づべきことを知り、自分共が繁昌するのは、それ丈世の中に迷惑をかけるのであるといふ道理を知つて、廢業を思ひ立つに至りては、眞に見上げたものと謂はねばならぬ。

他の廢業の動機の不明なる六人に就ては、これも大體から言へば、前述の二三の理由なり、又は其他に何か特別な理由が混じて、此決心をなすに至つたものに相違なからう。

（二〇）

彼等は如何にして救世軍の事を知つたか。卽ち救世軍に相談すれば廢業の相談相手になつて呉れるといふことを、知るに至つたか。

一、救世軍發行の「廢業の勸め」を讀みて　一人
一、新聞を讀みて　一人
一、朋輩より聞きて　二人
一、情夫より聞きて　四人
一、不詳　十七人

此不詳十七人は、いつの間にか救世軍は娼妓を助けるといふことを、聞知つたのである。

（二一）

彼等は如何にして愈々救世軍に頼つて來たか。其手續は如何なりしかといふに。

一、文通に由て頼み來りしもの　十二人
一、直接に救世軍を訪ひ來りしもの　六人
一、親許を經て救世軍に來りしもの　三人
一、知人又は情夫を經て來りしもの　四人

最も此中一人は嘗て廢業を思ひ立ち、一人で之を試みて遊廓を飛出した後、今一度引戻された經驗を有する者であつた。

（二二）

既に救世軍に助力を依賴して後、彼等は如何にして其廢業の志を果すことが出來たかといふに、それは左の如し。

一、手紙を寄せたる後、救世軍士官の訪問を受け、同伴して警察に出頭したるもの　十人
一、逃亡し來り、士官同伴警察に出でしもの　八人
一、休業中賴み來りて廢業せしもの　三人
一、逃亡して後書面にて手續をなせしもの　四人

手紙を以て賴んで來た娼妓を助けに行つた士官が、ひどく亂暴狼藉に遭ふた樣な例は少なくない。逃亡して賴つて來たものゝ中には、妊娠中でありながら、二階から飛び降り。一時氣絕して後漸く起つた樣なのもある。中には逃亡して一應郷里宮城縣に歸り、廢業屆を郵送したが、どうも受理せられたらしくないので。今一度上京し、救世軍士官に伴はれ、警察署に出頭して、始めて娼妓名簿を削除せられた者もある。

休業中、賴みに來た中の一人は、滿四年前六百五十圓にて吉原の某樓に身を沈めたる後、廢業を思ひ立ち、親戚間より金二百圓を作つて之を樓主に提供し、廢業の相談をすると。金を取り上げて暫時休業させた丈で、廢業はさせて呉れない故、終に救世軍に縋つて自由廢業をなすに至りたる者である。

若夫れ士官が彼等を伴ふて警察署に出た時の、掛の人の扱ひ振に就ては、間々其當を得たと思はるゝものも無きにあらねど、概して言へば、取締規則の明文に由て事を行ふには非す、唯數百年來の舊き習慣に拘泥し。どこ迄も樓主の所謂貸金を保護する爲め、成るべく娼妓に落着いて長く醜業を營むことを奬勵する傾向があるのは、如何にも殘念千萬の事である。公娼全廢の斷行をなし得ないならば、少く共現行の取締規則を勵行し。我が日本臣民の中に一人たりとも、厭な醜業を辛抱して繼續しろなどゝ、勸誘せらるゝ如き事は、ない樣にして欲しきものと、熱心に希望するのである。

（二三）

二十五人の廢業娼妓が、娼妓をして居つた年月は如何と取調べて見るに、其結果は次の如し。

一、三ヶ月	二人	一、五ヶ月	一人
一、十ヶ月	三人	一、一年半	三人
一、二年	一人	一、二年半	一人
一、三年餘	五人	一、四年	三人
一、四年半	二人	一、五年半	一人
一、不明	三人		

これに由て私の得た感想は、娼妓は其遊廓に入つたばかりで、まだ餘り泥水に染みこんでしまはぬ、三月から一年半の間に速に廢業を思ひ立つか。さもなくば二年と二年半は夢の

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

如くに過ぎ去り。三年目から四年目の頃になつて、今一度我が身の行末の見込のない事や、其他種々なる事を思ひめぐらし、廢業を思ひ立つのが一般であるといふ事である。つまり娼妓は醜業窟に身を投じて間もなく、速に廢業するか。又は三四年目の頃、一度泥水社會に沒頭して後に目をさますか。其二つの時期に廢業を思ひ立ぬ樣なものは、もう其社會に全く捕へられ、其犧牲となり了るもので、其濟度の見込が甚だ少ないことになるのであらうと思はれる。

（二四）

彼等は幾歳の時に廢業を斷行したかといふ、年齡のことを調べて見るに、卽ち左の如し。

一、二十歳	四人	一、二十一歳	一人
一、二十二歳	二人	一、廿三歳	二人
一、二十四歳	四人	一、二十五歳	四人
一、廿六歳	四人	一、二十七歳	二人
一、二十九歳	一人	一、三十四歳	一人

前項に述べたると同じ道理にて、娼妓は最初の比較的無垢な間に廢業するか。さもなくば三四年之に從事して後、つくづく今の身の上が悲しくなつて、異る生活に入りたい氣になるか。二つに一つである樣に見える。卽ち此表の廿歳と、二十四、五、六歳の邊とに、特別に廢業の多いわけは、これが爲であらうと思ふ。

（二五）

彼等が廢業して、婦人ホームに收容せられた時の健康狀態は、何うであつたかといふに。大體から言へば

一、普通　七人　一、良好十人　一、虛弱八人

と、斯ういふ事になつて居る。併し何うせ無理許りして來た身體であるから、試みに彼等の持病の有無を取調べて見ると。

一、持病なきもの　十五人

一、持病あるもの　十　人

内、脚病	二人	肺結核	一人
神經痛	一人	肺尖カタル梅毒子宮痙攣、モルヒネ中毒	一人
胃腸病	一人	梅毒	一人
脊髓病	一人	時々サシコミ	一人
眼病	一人		

併し此れは專門家が細かに診察したわけでないから、唯大體の健康狀態を示す以上の用には立たないのである。

（二六）

最後に今一つ、彼等が婦人ホームを出で行きたる後の成行は如何といふに。

一、家族又は親戚に引渡したるもの　十六人

一、結婚したるもの　七人

一、不結果　二人

雜と此ういふ事になつて居る。不結果といふのは敢て今一度娼妓になつたといふ意味ではない。どうなつたか分らぬ故、これを不結果と見做して居るのである。

これは突嗟の際大急ぎて調べたのであるから、多く疎漏の點もあらう。何れ其うち機會を得て更に精密に、も少し多人數に就ての研究を試みたいと思ふて居るのである。（完）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

主張

藝娼亡國論

早稲田大學教授
廓清會評議員　平沼淑郎

（一）

東京市の統計年表は、藝妓の數を示す。左の如し。

年度	東京市內	接續町村
明治三十一年	二、六四六	—
同　三十二年	二、九三二	—
同　三十三年	三、〇〇二	—
同　三十四年	三、一二二	—
同　三十五年	二、八八四	—
同　三十六年	二、八八九	九九
同　三十七年	二、六一五	一二三
同　三十八年	二、八二六	一二六
同　三十九年	三、三一五	一四九
同　四十年	三、九五三	一九九
同　四十一年	四、一四〇	二〇八
同　四十二年	三、九三八	一九四

これによつて、これを觀るに、市內藝妓の數は、明治三十一年に於いて二千六百四十六人にして、明治四十二年には三千九百三十八人となれり。故に十一年間に五割許を增加せり。接續町村に於いては、明治三十六年より同四十二年に至る七年間に二十割許を增加せり。少なからざる增加と謂ふ可し。

藝妓は何者ぞ、杯盤の間を周旋し、座興を幇助するを本職とす。然れども、これ表面のみ。實は私娼なり。數千の藝妓中然らざるものありと雖も、落々晨星の觀ありと云ふ。德川氏元和の初、遊廓設置を許可せしが、娼妓は淫を賣るのみならず、絲竹管絃の技に通じ、文藝に堪能なるもの、またこれありき。而して正德の頃より、遊藝を主とする踊子、廓外に現出し、遊藝賣淫を兼業とせり。これより藝者と稱するものありて、以て明治に至りぬ。維新以前の藝者は、業の賤劣なる論を俟たざれども、氣概の稱揚すべきもの、往々にしてこれありしが、社會の變革と共に、田舍武士や、由緒の詳かならざる所謂成上りもの、出でゝ上流の地位を占むるに至り、藝妓は、ます〳〵跋扈すると同時に、甚しく氣品を下落したり。奔流滔々として抑止すべからず、以て今日の形勢を馴致し、藝妓は私娼の別名たるに至りぬ。

（二）

待合茶屋と藝妓との數を比較し、推斷を下さば、この間の消息を明にすることを得ん、また東京市の統計年表によつてこれを示さんに、待合茶屋の數は實に左の如し。

年度	東京市內	接續町村
明治三十一年	四二二	—
同　三十二年	四六三	—

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

同　三十三年	四八〇	—
同　三十四年	五一一	—
同　三十五年	五二〇	—
同　三十六年	五六三	一
同　三十七年	五八四	二
同　三十八年	六三六	三
同　三十九年	六八七	三
同　四十年	七八四	六
同　四十一年	八二六	六
同　四十二年	八八三	一〇

市内の待合茶屋は、十一年間に二倍餘の増加をなし、市外に在るものは、六年間に十倍せり。これ果して何の意味を示すか。嫖客の待合に出入するもの、ます〳〵多きを加へたるを證す。また前に述べたる藝妓率を取つて、これと對照するに、待合茶屋増加の率は、非常に多きを發見し得べし。なほ藝妓を包容せる藝妓屋の數を見るに、

年度	東京市内	接續町村
明治三十一年	一、二三八	—
同　三十二年	一、二九四	—
同　三十三年	一、三一五	—
同　三十四年	一、三二四	—
同　三十五年	一、三四九	—
同　三十六年	一、三四五	五九
同　三十七年	一、三七三	六六
同　三十八年	一、四九〇	七二
同　三十九年	一、五八五	八二
同　四十年	一、五三四	九六
同　四十一年	一、六二五	九七
同　四十三年	一、六一八	一〇一

増加は爭ふべからざれども、その率待合茶屋に及ばず、藝妓及藝妓屋の増加率待合茶屋に匹敵せざるは、藝妓が待合茶屋に於いて業務に從事するの、ます〳〵多きを示すものたらずんばあらず、待合に於ける業務とは何ぞ、けだし推測に難からざらん。

（三）

翻つて藝妓と公娼との關係を見るに、左の數字あり

（第一）東京市内

年度	貸座數	引手茶屋	娼妓
明治三十一年	二七八	一四二	四、五五五
同　三十二年	二九七	一三九	四、七二二
同　三十三年	二九九	一四〇	三、九〇六
同　三十四年	二八九	一三六	三、五九五
同　三十五年	二八一	一三四	三、九四四
同　三十六年	二八四	一二七	三、五九〇
同　三十七年	二九五	一二三	三、九四〇
同　三十八年	三一二	一一六	四、〇九八
同　三十九年	三四五	一一三	四、五四三
同　四十年	三七三	一一〇	四、八七〇
同　四十一年	三八一	一〇七	五、〇七〇
同　四十二年	三八九	一〇九	五、一〇二

（第二）接續町村

年度	貸座數	引手茶屋	娼妓
明治三十六年	一五八	二九	一、四二四
同　三十七年	一五八	二六	一、四八四
同　三十八年	一五七	二五	一、五四四
同　三十九年	一五七	二五	一、六五六
同　四十年	一五七	二四	一、六五一

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

同 四十一年	一九一	二三	一、六四〇
同 四十二年	一五六	・ 二三	一、六三二

貸座敷の增加は、市內に於いて四割許を示したれども、接續町村に在つては、却つて減少を示せり。娼妓の數に至つては、市內は三割四分許接續町村は一割四分許の增加に過ぎずこれを藝妓及待合茶屋の增加率に比せば、その差大なり。これ公娼減じて、私娼跋扈するに非ずして何ぞや、公娼は上流の弄ばざる所となつて、藝妓その隙に乘じたるなり、引手茶屋の減少は、確實にこの事實を證明せり。

今や、私娼全盛の時代なり、德川時代、踊子湯女あつて、遊廓の隆盛に對抗せしも、遂に逐はれて、或は廓內に入り、或は消滅せり。今の私娼の盛なる、その匹儔に非ず、或る人、東京は待合の都なりと云へり、外人我が邦を稱して藝者國(Land of Geisha)となす。近代の字書は白地にゲイシャの語を挿入せり。實に旭日昇天の勢ありと謂ふべし。

《四》

私娼は藝妓に止らず、然れども、藝妓は社會の中流以上を對手とせる私娼なり。國家社會の元氣に至大なる關係を有するものたり。況や、その年に月に跋扈するに至つては、國民道德上輕々看過すべからずと信ず、余は私娼としての藝妓の跋扈は、亡國の兆に非ざるなきかを疑ふなり。これ兩面の觀察を要す。一は藝妓そのものよりするもの、一は藝妓以外の方面よりするものこれなり。乞ふ第一より論せん。

私娼たる藝妓の光輝は赫々たり。然れども、光强ければ其影暗し、藝妓の內情を暴露せるものを觀るに、ますく\その感を深うす。就いて思ひ起すは、希臘のヘテーレーなり。その境遇我が藝妓に酷似す。ペリクリースの寵姫アスパシアの如き、ライス・フリネ・ピチオニース・テオドーテの如き、當時の名流と交りて、文に詩にその名を傳へたり。その他、才媛美姬乏しからざりきと雖も、十中八九は、外面の美以て內面の醜を蔽ふに足らず。凋落して、苦艱の裡に身を終れりと云ふ、向ㇾ誰將ㇾ唱竹枝詞。老去如今粉懶ㇾ施。酌ㇾ酒弄ㇾ絃辛遣ㇾ興。爭ㇾ嬌競ㇾ艶已愆ㇾ期。靑樓夢冷擁ㇾ衾處。紅閣香消對ㇾ鏡時。最是平常腸斷者。窓間小照昔年姿。の感は、彼我共通の事に屬す。

聞說らく、年收三千圓は東京に於ける第一流の藝妓の所得なりといふ。而して支出は活計費、交際費、稅金、その他の雜費を合せて二千四百圓、衣服費六百圓、車代三百圓、贈答費五百圓、合計三千八百圓たり。その外、年始に新衣の調製を要す。收入の支出を償はざるかくの如し、他に補塡の策を講せざるべからざるや必せり、これ第一流に於いて然り、その他に至つては、推して知るべきのみ、これに加ふるに、華美を競ひ、輕薄を專らとするの社會に在つては、壓迫誘惑兩ながら到り、天眞爛漫な人格は去つて、害毒の侵蝕いよく\甚しきに至る。藝妓の內情を暴露せるの書、みなその辛苦の情を詳悉せり、こゝに於いてか、仁人豈一掬同情の淚なからんや。然れども、一旦この魔窟に沒頭せしものは遂に奴隸たるを免れざるなり。

《五》

藝妓もまた人なり、同じくこれ　陛下の臣民なり。而して

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

家情已むを得ざるものあるか、虚榮心の驅使する所となるか、または其他種々なる事情の爲に、身を魔窟に投せるなり。紫は遂に朱を奪ふ。色界の濁浪は之を驅つて、不倫の邪路に入るゝなり。奴隷化せざらんと欲すと雖、得べからざるなり。

凡、一國の盛なる、國民各心身の自由を發揮するにあるなり。羅馬の隆興せる、民みな弋を執つて戰へり。戎事一旦一階級の專掌に歸するや、民文弱に流れて、色魔金錢の奴隷となれり、こゝに於いてか、蠻族の侵寇に對峙することを得ざりき。國民屈辱の地位に在りて、天眞の氣象を發揮し得ざるときは衰ふ。衰ふるは亡ぶるの端なり、藝妓節操を賣る、既に奴隷たり、外間の壓迫誘惑に倒さる。また奴隷たり、何を以てか天賦の能力を實現し得ん。

人或は云はん、天下この種の壓迫誘惑に遭遇せざるものあらざらん。豈唯藝妓のみならんやと、然り。然るが故に、社會改良論者は苦心焦慮下流社會の覺醒を促し、人の人たるべき道を履ましめんとしつゝあるなり。これ國家衰亡の緒は國民の醉生夢死より開かるべきを以てなり。見よや、支那と云ひ、土耳古と云ひ、波斯と云ひ、廟堂人傑なしとは云はざれども、概みな小人闒茸にして、國民は自覺せざるなり、醉生夢死せるなり、これ亡國の兆に非すと謂ふべきか。社會改良論者は既にこゝに着目せり。何ぞ進んで心身を奴隷にせる藝妓に及ばざる。貧困、無識、罪惡の裡に呻吟せる下流社會救はざるべからずんば、嬌態艶姿を以て隱蔽せる貧困無識罪惡を矯正せざるの理あらんや。彼れ衰亡の端緒たらば、此れまた衰亡の媒たり。況や節操を賣るの奴隷が、年に月に驚くべき増加率を以て増加しつゝあるをや。また況やこの職業を幇助する所の待合茶屋が更に驚くべき進歩をなしつゝあるをや、宗敎家や社會改良論者は、憂國の念深しと信ず、盍んぞ進んでこの方面に一大斧鉞を加へざる。

人ありまた曰へらく、子の論は公娼に適するものたり、上流社會慰安の要具たる藝妓に之れを用ふべけんと、公娼のことと別に論あり、然れども、問題外に屬するが故に姑くこれを置く、然れども、余を以てこれを考ふるに、藝妓も公娼も、奴隷たるに於いては一なり。「憂き川竹の流」と云ふ語は、均しく適用し得べしと信ずるのみならず、古人も今人も、しか適用せるに非ずや、上流を對手とすると、下流に接觸するとの差異あるのみ。憂き川竹たるに於いて何の相違かある。

（六）

第二の點を論せんに、公娼は、下流社會の玩弄物たるの傾向を有するが故に、おのづから淫賣を專業とし、肉慾の充足を以て、目的を終了するなり、こゝを以て、少くとも表面上社會の擯斥する所となつて、肉慾の充足と榮譽の維持と兩立せざるに至る。仙臺侯の高尾に於けるが如き關係は、その跡を絶てり、然るに、藝妓は、同じく奴隷にして、而かも上流社會を顧客とするが故に、公娼に比して幾分の榮譽を有す。法を犯すも、當該吏を輕んずるの風あり。これ社會風紀問題の上に於いて看過すべからざることゝす、この事實は、藝妓をして、同僚なる公娼を凌駕せしむる所以にして、また社會として、その間に輕重上下の差別を立てしむる所以なり。

凡、財力の關係は世事を輕重上下するの最大勢力たり、その實質の如何は第二の問題たるを俗界の常とす。上流の人、

俳優を輕侮せば、世みなこれを輕侮す。侯伯これを招聘せば、その位忽にして顚倒す。而かもその眞價は一朝にして轉變すべきに非ざるなり、吳王劍客を好んで百姓瘡瘢多く、楚王細腰を好んで宮中餓死多し、上流の嗜好は、忽にして天下の好尚となる。世、物の實を究めずして、趨向を定むる概ねみな然り。仙臺侯娼婦を寵するが如きあらば、娼婦の價忽然として上騰す、公娼藝妓共に賣淫を營まば、均しくこれ娼婦なり、而かも一は下流を對手とし、一は上流に接觸するの故を以て上下の別を生ず、これ藝妓が幾分の榮譽を有するの觀ある所以にして、その他に差等を立つべき顯著の事由はあらず。上流の好む所は榮譽ありとの觀念は、やがて社會萬般の現象に影響を及すなり、國家の隆興衰亡は一に係りてこゝに在り。文學藝術の隆興もとより惡事に非ずと雖も、社會の中堅文弱淫靡に流るゝの時と、その期を同じうするもの多きは何ぞ、希臘の文藝極盛の期は、ヘテーレーが跋扈を極めたる時なり、アレキサンダー第六世またはレオ第十世時代の羅馬は繪畫彫刻の盛且美を以て稱せらる。而して道德上より判斷せば、遙にペリクリース時代の雅典に劣れりと云ふ。西班牙にカルデロン●サーヴンテス●エラスケース●ムーリヨー出でて、文藝繪畫を世界に誇示せし時代は如何。政治上、經濟上また道德上その衰頽に瀕せし時に非ずや、我が邦王朝時代の美術は、世界に誇るに足るといふ。これ藤原氏全盛の餘響都人士を華奢の裡に醉生夢死せしめつゝありし時代なり、近代工藝の極美を唱ふるものは、みな元祿時代を推す、これ慶長元和に鍛錬したる士道の頽廢と、その期を同じうす、文藝美術は、勢力家の嗜好に適應して、太平を裝飾するの花と謂ふべし、花、艶美を競へる時は、蟲その蘂を侵蝕す、凋落は既にその兆を呈す。この事實は、取つて以て藝妓に適用すべし今の日本國は藝妓國にして、その首都は待合の府なり、藝妓は、一見國寶の觀あるなり、また盛なりと謂ふべし、而かもこれ財力の趨勢に追隨して、國土を飾るの花に過ぎず、社會の根幹枝葉には、害蟲蔓延せるの證左とせざるべからず、この花ます〱繁殖するは、害蟲の蔓延いよ〱大なるを思はしむるなり。藝妓の跋扈は、一面奴隷を増加して、健全なる分子を減殺し、以て國家衰亡の端を開けると同時に、他の一面に於いて、その跋扈を助長すべき不健全なる好尙の流行せるを知るなり、これまた國家の元氣を消磨する一大害蟲に非ずして何ぞや、況や公娼と私娼との別なきを知らずして、財力の好尙に迎合するを榮譽とするの氣風を養成するに於いておや。

（七）

人余を以て沒曉漢となす。曰く、今や宴を張り客を饗するに、これなくしてよくし得べきかと、余またこれを知る。男女交際の狀態、希臘時代の如き時代に在つては、ヘテーレーに酷似するものなくんば、不便を免れざるべし、然れども、奴隷に陷るべき魔窟の狀態を以て滿足すべきか、これを助長する社會の趨勢を坐視すべきか、余は奴隷の全盛を慨歎するなり。藝妓にして、座興を助け、絲竹管絃を弄する何の妨ぐる所かある。文藝美術を愛玩し、演劇を觀覽して積日の勞を醫すると同一般なり、何の害かあらん、然れども、藝術にして不健全なるか、演劇にして不健全なるか、また藝術家、俳

優にして、奴隷の境遇に沈淪せんか、余は藝術家俳優そのものと、これを奴隷に陷るゝ社會とに對して、亡國者の名を呈するに躊躇せざるべし。

人また曰へらく、我が邦新領土を開拓し、または海外に商業關係を擴張する、かならず醜業婦を先登とす、その功や沒すべからず、むしろ興國の媒と謂はんのみと、昔時雅典文藝を以て寰宇に鳴る、みづから以て坤輿を壓せりとなす、西曆紀元後二六七年ゴス人種雅典を陷る、時に書籍都市に充積す衆、鄴架を火中に投じて、烟に化せんとせしに、その將これを止め、書は雅典人を文弱に流したり、宜しく之れを存して以て、我が武を輝かしめよと曰へり、余をして外國人たらしめば、書籍に代ふるに藝妓の語を以てして、この言をなさん。移して以て、論者の頭上に加ふるの鐵槌となす。

或る人また曰へらく、子は人情の機微を解せず、人は性慾の要求あり、ストイック一流の修身學を以て、これを律せんは、益なくして害ありと、余また木石にあらず、天下の人をして、木石ならしめんとするの勇氣なし、藝妓も人なり、その夫を選ぶまた何をか妨げん。然れども、余の云はんと欲する所は、これを奴隷の狀態より救出せんとするに在るなり、奴隷の跋扈全盛は、國家衰亡の兆たりと思へるなり、人情の機微の如きは根本の問題に非ず。

客あり論じて曰く、子は聖人君子なるかなと、否、余は凡人なり、釋迦や、孔子や、基督の見地よりして、藝妓を論評するの資格なきを信ず、然れども、一國の安危に關する問題は、その研究を怠らざるの覺悟を有す、前文に論述せし所、固より高尚なる哲理より演繹せしに非ず、平凡なる社會觀を以てせしのみ、敢て僞善者流の行爲を模倣せず。

（八）

要するに、私娼としての藝妓が、社會の壓迫誘惑を受けて墮落の上に墮落を重ね、而かも、その數が旭日昇天の勢を以て增加するは、社會に不健全なる種子を播くに均し、しかのみならず、財力がこれを歡迎して、ます／＼その跋扈を助長するに至つては衰亡を表徵するものと謂つて不可なし。

抑人間の性慾は、これを抑制すべからず、然れども、その滿足を求むるは、おのづから道あり、性慾の滿足と榮譽の維持とは、別問題に屬して、混同すべきに非ず、然るに、藝妓を弄するに至つては、全然これを一にせるは何ぞや、これ士道の頹廢と謂はざるべからず、藝妓たゞ座興を助け、絲竹管絃を弄するに止まちば、何をか論せん。その私娼として、奴隷たるが故に亡國を云々す。また奴隷の跋扈を助長するものあるが故に、亡國を提唱す。

演劇は人の好む所なり、文藝美術を好むもまた人の性なり。性の好む所、これと絶滅するの要なし、藝妓また交際の上に必要なりとせば、これを存置するまた妨なし、然れども演劇文學美術にして、人心を痲痺せしめ、卑劣なる心情を誘發せしむるものたらば、その流行は亡國の端緒なり、藝妓またこの理を免れず。

世の藝妓を論ずるもの、この理を知らざるに非ず、而してその流行は財力の嗜好に投ずるものたることを論せるものあらず、財力の嗜好健全ならば、藝妓もまた健全なるを得べし。社會の上流に立つもの、藝妓を健全ならしむるの途を講ずる

ものなく、徒に私娼としての藝妓を皷舞し、ます〳〵風紀を紊亂し、亡國の分子を蔓延せしむるは何事ぞや、財力のなす所、天下の凡人をして、羨望措く能はざらしめ、視て以て榮譽のことゝなさしむ、榮譽のことゝなさぬまでも、不名譽のことゝ思はしめざるに至る、これぞ亡國の兆なる。

　藝妓として節操を辱められざるの程度に居らしめよ、社會の上流に立つものゝ、行動如何によつてなし得られざることに非ず、女優なるものあり、今や人みな多少の敬意を表す、財力者流また女優としてこれを視る、直接に相語ると否との差こそあれ、人の興を助くるに於いては藝妓と一なり、然るに一は天眞の人格を發揮し得て、一は奴隷の境遇に沈淪す、何ぞその徑庭の大なるや、罪は自己の無識に在らんも、また社會の壓迫誘惑に由るもの決して少しとせず、世これを救正して、眞の人間に復歸せしむる志士仁人なきか。

　德川氏の衰亡は何によれりや、原因もとより一にして足らずと雖も、士人の遊惰、天下の大事に處するの心なかりしは、確に其の一なり、その遊惰は何によれるか、妓輩と相親しんで、無識者の氣風に感染せし非にざるか、恐るべきなり、世の世道人心を說くもの、艱澁なる理窟を說く、而して財力者流が亡國の端緒たる奴隷の養成に勉めつゝあるを知らず、決して盡せりと謂ふ可からず、凡百の事、この道を誤らば、亡國の種子となる、軍國の事、もとより必要なれども、武人の跋扈は羅馬の人心を萎靡せしめたり、韓國の軍隊は却つて騷亂を讓成するの具となれり、藝妓また改良を施さば或ひは社會の便益ともならん。然れども今日の趨勢を以つて進むときは、亡國の分子たらざらんと欲すと雖も、能はざるなり演劇文藝美術に對して苦心焦慮するもの焉ぞ眼を藝妓の方面に轉せざる、國防の必要を論議說述するもの盍ぞ內科的害毒の防遏に勉めざる。

◉長府町に於ける藝妓置屋設置反對運動

此程山口縣長府町に藝妓置屋を設置するといふ運動が起り町會の問題となり、殆んど決定を見る處であつたが、同地婦人矯風會は、風敎上由々敷大問題なりとして、猛然結束して起ち、或は演說會に、或は大擧して町會を傍聽し、議員を牽制し、示威運動を試むる等、英國婦人の參政權運動を見るが如き本邦空前の痛快なる運動の結果、物の見事に無期延期となつた事件がある、詳細は次號に於て報道せむ。

◉濱松遊廓問題の其後

本誌前々號に於いて本問題に對する安部副會長の意見を掲げ、濱松市會及市民の反省を促し、各方面に同誌を寄贈し置きたるが、數日前報知新聞は左の報道をなしてゐる
濱松市會の懸案たる遊廓移轉第一回調査會は、二日午後一時市役所會議室に開きしが、委員は互に其意嚮を計り兼ねて容易に意見を述べず、結局府下並に愛知に於ける遊廓所在地の現狀を實地に調査し、第二回の委員會に於て各種調査を發表し、移轉候補地及び期日を協議せんことを約して、午後五時散會せしが、遊廓移轉問題に關し、當面の遊廓側は固より、一部の地主側に於ても候補地の選定に就きて、委員に猛烈なる運動をなしつゝありとの風評あれども、濱松市民の風紀に影響する重大問題なれば、委員は極力自己の利益と他の情實を排し、委員會の眞面目を發揮す可し。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

日本の藝妓と獨逸の注目

左は本年七月二十四日獨逸伯林時報（Berliner Zeitung）の載する處で、平沼教授が特に本誌の爲に反譯せられたものである。多少の數字上の誤があるが、譯者は原文の儘にせられた。

日本國が公然藝者業を許してゐることに就いては近來同國に於いて熱心なる反對論が起つてゐる。中に就きて有名なる早稻田大學教授平沼學士の議論は最重要有力なるものの一つである。學士は東京の雜誌新日本紙上に於いて藝者は日本の國を亡すものであるとまで極言した。而してその議論の根據として擧げてゐる事實と數字とは、注目の價値あるものである。

一

平沼教授は史實より立論して、藝者業は古來國に於いて公許してゐたものでその代表者たるべきものは公會宴席に侍り談話歌舞を以て客を待つの外何等の務をも有しなかつたものであると云つてゐる、抑ゝ二十年前までは、藝者と云ふものの職は技藝と愛敬とを專としたもので、節操を汚すが如きは罕覯のことであつた。有名なる吉原の繁盛であつた時代を見ると、上等の妓女は容儀教育宜しきを得てゐたので、遊廓は社交の中心となつてゐた。然るに遂に上流社會の眷顧を失つて、敬重すべき人士の跡を絕つに至つた。これと同じく藝者の從前の高き地位より墜落して、今やその職とする所は卑賤なる吉原の姉妹たちと殆ど擇ぶ所がなくなつた。

二

東京吉原にゐる女子の數は約五千で、約四百ばかりの家に分配されてゐる。その數を十年前に比較して見ると壹割弱の増加である。これに反して藝者の數は同じ十年間に二千から四千二百に增して、藝者營業所は倍加してゐる。平沼教授はなほ進んで、舊時吉原の住民は大抵罪惡を犯すの傾向を有してゐて、殊に誘惑壓迫を事としてゐたものであるが、今日の藝者は同樣な罪惡の蔓延に對して間接に責任を帶ぶべきであると論じ、且又現代藝者の多數は抱主に對して非常な債務を有してゐるので、その生活は殆ど奴隷と同じきものであると述べてゐる。由是觀之今日の藝者は元の如く愛敬容儀を以て客を待つものではなくして、その多數は娼妓と同じきものである。

三

平沼教授の論述した所から推斷して見ると、現代の藝者業は古日本の制度が退化したために非難すべきものとなつたので、また藝者制度が藝者の身分に對して罪惡を犯してゐることは藝者そのものが罪惡を犯してゐるよりも一層甚しき程度に上つてゐる。平沼教授はまた熱心に社會改良を叫んで、この制度を根柢より攻擊し、藝者問題を輕々看過すべからざることをその國人に警告してゐる。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

青年と性慾問題

青年會同盟幹事
廓清會理事文學士　小松武治

〔一〕性交は健康上缺くべからざるものでない。花柳病に關する事實を秘密にするは大誤謬。遺精に就て。〔二〕貞操の精神的並に肉體的結果。淫賣婦は飽迄危險の媒介物。〔三〕婦人が花柳病に傳染したる後の禍害。花柳病は全治し得るか。〔四〕庸醫の廣告に欺かるゝ勿れ。結婚證明書が必要。

〇米國紐育にある萬國青年會同盟本部では、特に青年の性慾問題に注意する處あり、性慾問題叢書なるものを發行して居る予は第四篇「婚約と結婚」(Engagement and Marriage)を手に入れたから、其中に最も肝要なる事項と覺ぼしきものを抄譯して之を紹介しようと思ふ。

《一》

〇性に關する克己自制は不健全であり、不自然であるといふ事は醫學上の謬見である。此信念は半は無知のため半は庸醫のために謬られて長年の間廣く行き渡つたものである。これには生理學上、病理學上の根據はない。ドクトル、プリンス、マローの語る處によれば性交は人間に必要でない、即ち健康上緊要なものではない。といふ事である。又性交は元氣を保持するに缺くべからざることだといふ事も事實でない。人間の生理的構造はそれを要求しない。生殖器官は、使用せねば廢頽に歸する腕の筋肉のやうなものとは違ふ。

〇モ一つの謬見は、貞操は守れるものでない、性的本能は制し切れないものだといふことである。吾々のうちには、一部の無知のためでもあるが、時としてこんな考を許した者も多い。性慾上の事で粗漫な態度に陷つた人だとて必らずしも責むべきではない。性交は人の慣習中でも最も有力な、最も陷り易いものゝ一つである。人間には性的滿足を得たいといふ本能的な、最も當り前な渴望がある。處が一度その渴望が不正な手段で滿されるならば、其後といふものは只大なる困難に支配されて再び浮び上がり得ない傾向に陷るであらう。性慾を制するは出來得ることで、又、必要な事である。

〇又疾病より受くる危險は想像以上である。痳病は感冒位なものだといふ語は昔から傳つてることであるが、全然虛言である——これこそ人類に害をなした虛言中で最も恐るべきものである。かういふ虛妄の説が何故に執拗なる根柢を有するかといふに、一はドクトル、マローの所謂醫學上の禁制に基づくのである。ある醫學校では、卒業生が花柳病に關する事實を洩さない、此等の事實を知ることが、他人の健康生命を保護するに必要である場合にでも隱匿することを誓はせられるといふことである。此事の眞否は兎に角、醫師が所謂秘密を保つの義務なるものが、極端に走つて我慢の出來ぬやうな惡弊を來す迄になつてることが甚だ多いのである。英米獨等の諸國に於ける醫師はこの樣な虛妄で固まつた萬里の長城を粉

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

碎せんがために努力して居る。

○遺精に關して少しく陳述したい。一ケ月に平均二回以上遺精することがないならば、それは通常當り前なので、自然が與へた安全瓣に過ぎないと觀て差支ない、多くの人の心配するのは例の庸醫の虚說に欺かれて居るのである。若しそれよりも多く遺精する場合には醫師の忠言なり保證なりを得て憂懼の根を絕つが必要である。普通はそれ丈けで澤山である。

（二）

○男子が不貞操なるより來す、精神的道德的結果は、肉體的結果よりも遙かに危險である。吾々の心に起る思想の品性上に及ぼす結果は、行爲の如くに根本的なることが屢々ある。耶蘇が山上の垂訓に於て「凡そ婦を見て色情を起す者は中心すでに姦淫したる也」と言はれた所以は卽ちこれであつて、此處では思想を以て行爲よりも尙ほ一層根本的なるものと見てゐるのである。結婚の精神的側面を見、これを力說する人であつて初めて此言の事實たることを知るのである。

○諸君の情慾を不正の方法で滿しても差支ないものだといふ考を一度心に起したならば、これと鬪ふことは困難である。若し結婚前に不規律なる生活を送つた人であつたならば、結婚後でも、淫猥な商賈の人間から遠かることは特に難儀である。吾々が罪といふことで此他の事ならばこれと比較しては打ち勝ち易い。

○若し男子が結婚前に花柳病に罹るといふと、縱令外見には全治した樣でも、害毒が潛伏してゐて、妻子に其痕跡を表はすものである。これが心を破壞する事甚しい。人々はこれを極めて祕密にする。彼等は自分の靈魂を保護する樣にそれを保護する。それは彼等の生涯の覆はれたる事の一つである。

○二種の主要なる花柳病は微毒及び淋病である。ある大家の言によれば男子の七割五分は淋病患者である相である。卽ち此丈けは現に罹つてゐる者か若くは曾て罹つたことの事のある者である。微毒患者は五分乃至一割八分ある相である。吾々は近來肺病について非常に心配をしてゐるが、今日は肺結核の何倍も人間を仆して、モツト恐ろしい影響を及ぼす此等の花柳病について、もつと研究すべき時代であると思ふ。淋病と微毒は或は普通の手拭や、酒盃、又は便所などから傳染することもあらうけれども、主たる媒介者は言ふ迄もなく淫賣婦である。彼等は日に一人乃至三十人迄の男子に接するのであつて、彼等が傳染の媒介となることは當然である。娼婦に接する男子は自分の選擇した女は無害だと考へるかも知れぬが、決してそうは云へぬ、後になつて其無害でなかつたことを知つて悲しみ恐れても取返しのつかぬことである。どんなに嚴重に檢微法を實行しても、健康證を與へた次の瞬間には既に又侵されてゐるのであるから、是も當にはならない。

（三）

○婦人の二割は結婚後花柳病に傳染する相である。微毒は墮胎、早產の原因となり、且つ害を生殖器官に及ぼすものである。罪もない、健康な、愛すべき婦人が、微毒、淋病に侵されて、而かもそれが、夫の無知なるか若くは故意に病を等閑にしたが爲に、知らぬ間に侵されて、六ケ敷い名前の病氣、それも一つと言はず、二つも三つもの病に侵されて外科的治療

迄加へねばならぬやうになつてる患者は何處の醫者にでも數多く來るのである。初めは何も知らぬ間に罹つた病氣も氣の付く頃には重くなつて、之を十分に治療するには、婦人の生殖器官を全部取去らねばならぬ場合が屢々ある。

○花柳病に罹れば普通不妊となるか、若くは生殖器官を害して生產力を減殺するか、苦痛い手術を餘儀なくせられる。こんな理由で婦人は一生病身で暮さねばならなくなつて、結婚はしても、秋毫も快樂を得ることが出來ない。婦人の外に同様知りもせぬ間に悲慘にも男子の犧牲となる者は、母の體內に於て既に其害を受くる小兒である。黴毒のために失命する小兒は頗る多數である。先天的に花柳病の害を受けた小兒の運命程悲慘なる者はない、長じて成人に達するものは僅かに四割しかない、それすらも尋常の健康體を持つて幸福を享け得る者は頗る少數なのである。それであるから吾々は花柳病の禍が啻に男子に及ぼす丈けでなく、彼が無知又は故意に此世に於ける最愛の妻子の生命を害する者であることを知らねばならぬ。

○專門家は淋病も黴毒も全治し得る者だといふことに一致してゐる。併し淋病か黴毒かどちらかに一度罹つたことのある人は全治してるとは斷言することが出來ないと言ふ人もある。諸君のうちには近頃獨逸で發見されてそれが黴毒に用ゐて頗る有効だと言はれてゐる藥劑卽ち「サルバルサン」若くは「六○六號」のあることを御存じであらう。この藥は液體狀の精製藥であつて、血管から血液の中に注射されゝば、藥劑中のある性質が血液や組織と一處になつて、體內を循環する黴菌に作用するのである。これが發見されて實驗されて以來僅々三年程ではあるが、從來の處では全治と迄は往かんでも甚だ有効であつた。之が外見には治療しても數年經つて病氣が再發するや否やは時日の問題である。此藥劑は專門家以外に取扱ふてはならぬ、素人が使用して、過失を惹起したり、死人を出したことすらもあるのである。

○ドクトル、マローの言によれば黴菌は一般に三四年の後でなければその力を表はし得ないといふことである。曾て淋病に罹つた人が結婚すべきか否を問はれた場合、彼は言ふた、若し球狀黴菌が存在したならば――專門家がそれを發見し得たならば――どんなことがあつても結婚してはならぬと。此黴菌が膀胱から緻密な組織の中に、又精液管の組織中に潜伏する。多くの場合彼等は穩かに潜んで居て患者は全治したものと思ふで居るか知れんが、後日に至りて、其病氣が罪も無い者に傳染されるのである。故に病に感染した者は家庭醫に相談すべきであるし、若し必要なれば完全なる治療手術を受くべき專門醫に關して忠言を得べきである。

（四）

○何事を措いても、庸醫や、數知れぬ廣告をしてゐる、所謂專門家なる者を避けよ。彼等のうちには稀に例外もあるけれども、多くはこれ未熟者か詐僞師であつて、彼等の忠告は聽かぬ方がましだ。庸醫と一處に其醫局とか解剖陳列室とかいふのも當てにはならぬ。紐育の第六街若くは第十四街にある解剖室と稱ふるものゝ如きは毫も教育的目的を以て維持されてゐるものでない。諸君が其處に入つて、石膏細工か繪畫を見て居るとやがて何者かゞ書物を手渡するといふ順序になつ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

てる。若し諸君が好奇心に富んでるか神經質でゝもあると、其書物に何か心をそゝる記事があるであらう。すると醫者は二階とか、若くは丁度其角を巡つた處にも居ると示される。醫者といふのは花柳病に罹つて、秘密療治を索めて居る者を相手に甘い汁を吸ふてゐる者である。彼等の相手は又花柳病に罹つて居ないに拘はらず、無知のために罹つてると誤解してゐる者である。

○醫師の談によれば、約婚の男女は道德上の怯懦又は無知から、恁ういふ病氣に罹つてゐても醫者の忠言を求め聽かうとしないといふことである。それで結婚後に手術治療を受けに來る者がどうしても多いといふことである。男子には既に結婚の約束をして居ても苟且にも自分一人丈に花柳病ありと知つたならば斷乎たる決心を以てその未來の妻を保護せんがために結婚を延期するか、約束を破棄すべきである。多くの結婚が何故に恐るべき結果を齎らして不幸なるものとなるかといふに、多くは結婚した當人等が花柳病の危險に關して全く無知なるがためである。

○既に記した通り「淋病は感冒に大差が無い」と誰でも信じてる諺であつて、こんな諺を速に葬り去らする事、即ち黴毒、淋病に關する眞事實を廣く知らしめる責任は、眞に理解せる品性の人の上に懸つてるのである。其性質の恐るべく、其結果の戰慄すべきものであるが爲めに、患者の間に出來得る丈け此等の思想を傳播することは吾人の義務である。

○結婚前に與へよといふ醫師證明書については近頃米國の諸州にやかましい議論があつた。ある佛國の醫師が作つた證明書草案は次のやうなものである。

「余は某氏の生殖器官が何等疾病故障なきことを證明す。
余は綿密なる局部檢査の結果、毫も花柳病若くは傳染性疾患の痕跡あるを認めざりき。」

これが如何に實際的であり、有効なるかは、後に述ぶる事もあらう。

本會賛助員、日本力行會長島貫兵太夫氏は、去る九月六日、四十八歳を以て溘焉として歸天せらる。悲しい哉。

氏は貧民子弟の教養に一生を捧げられたる一方に於て、曩には廢娼同盟會を率ゐて人道の爲に奮闘せられ、近くは又本會理事の重任に當りて大に盡瘁せらる。吾人は玆に在天の英靈に對し、深く感謝すると共に、謹んで哀悼の誠意を表す。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

雜纂

間違つた婦人觀

神田高等女學校々長　竹澤里子

家庭の風儀とか社會の風紀とか、又はこれをどうしたら可いかと云ふやうな問題につきましては、私別に立派な說があるわけでもありません、皆樣の御說を拜聽する事にいたしまして、どなたが御出下さいましても御話するのは御斷りいたしてるやうな次第でございます。

が、私は只婦人をモ少し高くしたい――今までのやうでは男子ばかりが尊く、女子と云ふものは全々其足の下に壓へつけられて居るやうなもので、誠に遺憾に存じますし、又これでは社會のためにも宜しくありませぬから、どうかして婦人と云ふものを引上げたい、それには女子に敎育を授け、智識をひろめ、其實力を養成しなければならぬ、充實したる婦人をつくりたいと思ひまして、女子敎育を思ひ立つたわけでございます。

○間違つた思想

だからと申して私共權利だとか何だとかそんな仰山な事を申し、それを求めるのではありません。つまり婦人を婦人として認めて貰ひたいのでございます。今までのやうでは全く男子のみの天下で婦人と云ふものには世界がないやうな風でございます。

こゝは男子の方にも考へていたゞいて私共がどうか婦人としての天職を充分に盡す事の出來るやうにして戴きたいと思ふのでございます。今までの男子の方は一般に婦人をおもちやのやうに考へて居られたやうで、大分改つては來て居ますものゝ、まだ〳〵根底にあるその思想は取去られて居ないと思ひます。

尤もこれは婦人に實力なく見識がないからでもありませうが私共實際に知つて居ます人々の家庭を見ますと必ずしも左樣でないかと存じますので、男子の方の中にはまだ解らない古い思想の方が隨分ございますやうです。婦人といふものは家に居て只夫に服從し、貞操を守つて居なければならないが、男子と云ふものは外に出て少々不品行をしたつて差支ないそれを恥としない、當然の事だと考へて居らつしやる方が隨分ございます、だから立派な婦人を奧さんにして居らしても御自分のから云ふ間違つた考から、家庭の純潔と幸福とを損つて居らつしやる方も多いのでございます。

我が田に水を引くやうでございますが婦人といふものは大きな働は出來ませんでも、男子の方に比較しますと、貞操などの事については正しい眞面目な考を持つたものが多いのでございます。

○何故に女子をおもちやのやうに思ふか

女學生の風紀がどうだとか申しますけれども其實婦人の方から誘惑するやうな事は殆んとないと申してよい位でその實不作法な男子の誘惑により一步一步墮落して行くのが多いので厶います。

私共の學校では澤山のお娘さんをおあづかりして居ますが皆近いところのものばかりですから、幸誘惑されると云ふや

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

うな事も未だございませんが、地方から出て來てる女學生には、隨分この誘惑にかゝる人があるさうでございます。シッカリした保護者のないのをつけ込んでいけない男子が巧に誘惑するのでございます。この點は全く婦人ばかりをせめないで男子の方の教育家にも注意して戴きたいと存じます。

又男子の方が何故に女子をおもちやの樣に思ひ、學生が厚かましく處女を誘惑するに平氣であるかと申しますと、これは矢張遊廓と云ふものが教へるのではありますまいか。遊廓は不品行を教へる學校だと仰しやつた方がございますが、ほんとに然だと思ひます。

○不品行の媒介

遊廓をなくすれば又一方に惡るい事があると仰しやる方もありますが、私はどうしても遊廓は不品行の媒介となるものだと思ひます。あんなものが公然となり公然とそこに出入する事が出來るものですから、知らず識らずの間に思想の上に其影響を受け自然男子の人々が婦人に戯れる事をそんなに惡るいことゝは思はない。そして學生などでも女學生を誘惑する事を平氣でやる樣になるのでございます。廓清會の御主旨の一つもこんな點にあるのではありますまいか。

私、薩摩の人に聞きました事ですが、昔薩摩の或地方ではあんなものは——曖昧屋さへ一つもなかつた、怪しい茶屋女などがあつては國の耻であると云ふので一切禁じてて居たさうでございます。その時分には、内々惡い事をした者はあつたか知れませぬが、兎に角一般から申して浮薄な不眞面目な人士は一人もなく大變に風紀がよくて立派に治つたと云ふ事でございます。

皆さんが各自御郷里の實際を調べてごらんなさつたら、こんな事實がいくらもあるではございますまいか。

醜業者も鬼にあらず

元長崎控訴院検事　宮腰信次郎

筆硯御清適賀奉候、陳者小生の知る一小貸座敷業者の廢業者の廢業談は、貴會の主張なさるる如き人道とか何とかいふ高尚な動機から起つたものには無之候得共、彼れ等醜業者とても人は矢張人にて鬼にも蛇にもあらざることを御知らせ申度、其成行の概略を申述候。

○

小生は横濱に住する同郷の友人の許にて、折々人品賤からざる老人が、殊勝氣に珠數をつまぐり居るを見受たることあり。其人の業體か貸座敷なりと聞き一驚を喫し申候餘り、業體の異樣なるに怖れ親しく談合したることも無之候所、昨年小生の友人不歸の客と相成り、其跡始末の相談に參加するため相越たる節、圖らず右老人と席を列べ、四方山の世間話を相始め候處、其老人は近頃妻を喪ひ、寂莫を感ずる折柄、天にも地にも一粒種の子息も肓腸炎にて東京の某病院に入院中の由にて、心安からざるを認め申候。

○

さて老人の申すやう、私に一人の孫あり、明年は小學の學課を卒る筈に候處、

私の稼業に似ず至つて熱心にて、成績も優等なれば、何とかよき教育を施したく思ふのでありますが、御考はなきやとのこと、小生は兼々貴會が公娼廢止に御盡力の事なれば、演説とか文章とかにて御助勢いたす資格はなきにせよ、此場合一小青樓の主人になりとも廢業を勸めて見たしと存候まゝ、有ん限りの智惠を絞出し申候。先づ小生は口を開き、貴殿は何の見當にて貸座敷業を開始なされしやと問へば、老人答へて、さればなり去る明治十九年亡き此家の主人歸省の砌、田舍に居ても勞して功なき世となりたれば、都會に出でゝ生活したしと思へども、額に汗の出る稼業は不適當なり、何か樂に一生を送る途なき乎と相談したるに、横濱に來り貸座敷業を開かば、手を懷にして生活すること難からずとの勸めに從ひ土地に因みて玉本樓と名付け開業して今日に至れるなりと答ふ。依て小生は更に貸座敷は豫想の如く樂な稼業に候哉と問へば、否々此頃は小供(娼妓を云ふ)の仕入も容易ならず、神風樓抔にては世の信用厚き故勞せずして好い小供を手に入ることを得れど、私共の身分にては地方に出て多數の前貸をして連來るも思はしき小供を得ること難し、今となりては決して樂な稼業にあらずと答ふ。果して左樣に候か、して貴殿は可なり蓄財なされし由、尙此上に資産を增さゞれは樂に暮すこと六ヶ敷乎と問へは、敢て富むにはあらねど一家族の生活は差支なき備ありと答ふ。

○

是に於て小生は切込で、然者早速廢業なされては如何、第一貴殿は樂な生活を希ふて貸座敷業を始めなされたに拘らず今日にては樂にあらずとの事なれば根本の目的に外れたるに候はずや、第二に貴殿は深く佛法を信じ、善根を積みたしと御心願の由、貸座敷業は其心願に適し候哉と問へば。(老人は苦笑しながら、儲けたいものですからと答ふ。)第三貴殿は儲金の爲めと申さるれど、時勢の變遷は最早貸座敷業にて利を射ることの難きを御認めになつて居るではなき乎、第四に病身の御子息はよく深更まで騷立つる業體に堪え得られ候哉、第五に愛孫の成人を願ひなさるる御心と、貸座敷業との間に矛盾は之なく候哉、なぞ懇ろに愚見を告げ、最後に既に生活に差支なき資産を有て、愛孫の將來を氣遣ひながら、尙貸座敷業を繼續なさるるは甚以面白からず、斷然廢業なされては如何と申して相別れ候處、數日前亡友の一周年忌に相當し、又々彼の老人に面會したるに、彼より口を開き、昨秋最愛の孫を喪ひ、世に賴みなき身となりたれば、倅とも談合の上斷然貸座敷業を廢し、山手に移りて氣樂に餘生を送り居る旨を語られ申候。

○

彼は決して小生の說に服したるにあらざれども、彼をして貸座敷業を厭ひ、其業を棄つるに至らしめたる四圍の事情は彼をして人の心に還らしめたるものにして、神に背たる人は、矢張鬼にあらざることを覺り申候不二。

救世軍大佐　山室軍平氏新著
通信 基督傳　東京銀座救世軍本營發行　定價二十五錢

世の基督を傳する者は内外頗る多いが、大抵は學究的のものか、又は余りに高すぎて平信徒や求道者等に對しては利益する所が少ない。然るに本書は極めて平易に通俗的に說述されたるのみならず、其事實を論議するの徒勞を避けて、却つて之れにより何事を啓示しあるかを見出さんと努められた。こんな風に解釋してこそ基督傳は活ける水となるのである。基督敎とは如何なるものであるかを研究せんとする者に是非三讀せられんことを勸める。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

娼妓の權利が無視せられ、自由が束縛されて居るといふ事は、今更云ふも愚な程であるが、人非人の樓主の手を離れ、病院に入院してゐる時、即ち官廳の手にありてすら權利が蹂躙せられて居るといふ事實が、いくらも見出されるのである。救世軍士官が面會を斷られ、警視廳三部長の說明を求めた本件の如きも、實に奇怪なる取扱である。

誌面の都合で掲載が遲れたから、多少舊聞に屬するが五月中の出來事である。三年前に娼妓になり、一年此方といふものは兎角健康勝れず、今も現に新宿病院に入院して居るが、何とか救世軍の助力を仰ぎたいといふ手紙が本營に屆いた。そこで係りの士官が早速新宿病院に行つて、刺を通じ面會を申込むと、院長加藤某は、樓主の證明がなければ入院患者に面會させぬ事になつてゐるといふて拒絶したのである。

○

警視廳第三部長を訪ふ

記者

士官は意外な言葉にて驚いた。娼妓取締規則の第十二條には

何人と雖娼妓の通信、面接、文書閲讀、物件の所持、購買其他の自由を妨害することを得ず

とあるではないか、咄々怪事である。院長の立場としては醫師としての技術上面會を拒む事は正當であらう。果して然らば樓主の證明とは抑何を意味するか、士官は寧ろ其事理を解せざるに驚いた。そして微笑を湛へて、最近醫學の學理に於ては、女郎が救世軍人に面會すると病氣が重くなりますか、と揶揄し、若しさういふ譯なら謹しんで引下りませうが、尋常一樣の花柳病患者の面會を拒む理由はあるまい。況んや自分は娼妓の求めに應じて來院したもので、自分が面會を求むるのではないが、病院では省令に抵觸する樣な內訓でもありますか、と諧謔を弄しつゝ更に面會を望むと、いや實は斯ういふ訓令があるのだといふ。

明治四十四年二月警視廳訓令甲第六號改正略符

（い）四十四年訓令甲第二十二號病院規定第十三條に入院患者に面會を求むる者あるときは前條の貸座敷、雇主、寄偶所の戸主及び其他親屬に限り職員立會の上面會せしむる事を得、
　但日沒後は急用の外之を許可する事を得ず

と斯ういふ監獄の囚人よりも酷い、奇怪な訓令がある。これを盾に拒むのだといふ事が分つた。

そんならといふので士官は直に警察署に出頭して堀の內警部に面會して事情を述べたので、樓主を呼出して貰ひ面會する事になり目的を果したが、餘り內務省の取締規則と矛盾し、人身の自由を拘束するものであるとして、士官は超へて兩三日、警視廳に栗本第三部長を訪ふて、これが辯明を求めた。

○

如才なき三部長はにこ〳〵と愛想よく『いや新宿の院長は技倆はあるか、訓令や省令の事は解釋違ひもありませう、あれは風紀の方から見た事で、お說の通り妄りに面會を拒む理由はありません、早速誤解のないやうに通牒を發する事にしませう』と云つたやうな極めて外交的辭令の巧妙な人である。

談はそれからそれと枝をひろげ花を咲かせた。千東町の密賣淫の檢徵の結果は

八十四%といふ驚く可き數から、健康診斷實施後五十何%といふ數に減じた成績を誇つて、如何に有益なる事であるかを數字の上に明示してゐると說き、更に廓淸會の松浦博士の說は『あれは臨床醫學の立場からで、病人一人々々に對する理論である、檢黴は太平洋に一本の昇汞水を投ずる樣なものだ云々の說は、臨床醫學の立場からの議論であつて、國家醫學の上からは、さう松浦博士だと云つて拜み倒した者ではありません、はつ〳〵』と笑はれた。士官は『廓淸』などにあらはれた。表を見ると、和歌山や群馬の壯丁は成績のいゝ方であるが、貴官のお考へはと突込むと、日本はまだ統計表が不備で、充分信を措くに足らぬといふ樣な口吻であつたさうである、が廓淸に載せた統計は、すべて其筋の調査を基礎としたものである。統計にのみ拘泥する事の不可なるは云ふ迄もなけれど、一斑を以て全豹を覗ふよすがになる事をも否定するならば、氏は淺草の檢黴の効果を如何にして信せんとするものであるかを借問したいのである。

併し、我等は氏が此ういふ問題に就て本會にも同情を有せられ、比較的公平の態度を以て眞面目に研究せられつゝある事を多とするものである。唯氏の結論の動もすれば先入主となるものか、隔離制度を有益とする事――賣淫是認――に傾かむとする事を、國家のため、人道のため痛惜せざるを得ない。

◎百燭光の照魔燈

▲曖昧屋と救世軍の睨み合ひ

場所もあらうに態々救世軍の眞向ひに狹い道を相對して淫賣屋を始めたので、救世軍と睨み合ひになり、遂に沒落せんとしてゐる近頃痛快な事實がある。

牛込赤城下の救世軍の勞作館前に三由亭といふすしやが此春から出來た。それが近頃怪しい白首の三人も抱へて夜になると盛んに風俗を亂してゐる。曉の三時頃迄も騷ぎ立てられて附近の人々が眉を顰める事も珍らしくなかつた。處が新任の本堂神樂坂署長は、仕立屋銀次で名高い人だけあつて、大に管內の風紀廓淸に努め、去月の六日三名の刑事が一時に踏み込んで、女共を拘留に處した。そこで豫て怪しいと睨んでゐた、救世軍勞作館は愈々眞相が明瞭になつたので、一は多勢の勞働者を收容してゐる自衞上、一は社會風敎の立場から痛快極まる驅逐運動を始めたのである。先づ第一に門前の薄暗い道に五十燭の電燈を二ツ點けて之に照魔燈と書した。軍員が交代に見張をし煌々たる照魔燈に照されて出入する痴漢を物色牽制する事にした。二階からも先方の二階が手に取るやうに分る。照魔燈の下には疊一枚もあらうといふ大看板を揭げて、之にアルコール中毒と花柳病は世の中で最も恐る可き病である、酒盃を手にするな、怪しい女に接するなといふ樣な事を要所々々に赤で圈點を施して墨黑々と書き立てた。さあ斯うなつては餘程鐵面皮でなくては遊べなくなる、客足は頓に減じて、昨今は漸く一晩に一人か二人といふ哀れな有樣になつたのみか、制服巡査が臨檢したり私服の巡査が警戒したりする有樣なので、早稻田の廓淸運動の時にも負けなかつたといふ名だゝる亭主も、今度許りは躍起となり、頻りに救世軍を惡口する脅迫するしてゐる。『なあに警察でも救世軍でも行れるだけやつて見ろ』と豪語して『俺迄此方も行つて見せる』と威張つてゐるが、強情我慢な亭主も昨今の狀態では遠からず沒落の外はなからうと、近所での評判である。

嬰兒の育て方

婦人記者

婦人の職分として勤むべき事が多い中に家内の治め方と、子女教育の二つは最も重大の職務で、其中特に育兒の任ほど重く且大切なる者はありません。諸般の事業に從事される方々の奥様達は、御主人がお内に居られる事が少いのでありますから、尚以て小兒育て方には重い責任があります。今育兒法に就て少しばかりお話し致しませう。

○母の衛生

小兒の育て方は身體的方面と、精神的方面との二つに分れて居ります。第一に身體的方面からお話しいたしますが、小兒は生れ出でゝより數年間二六時中已む時なく母の乳養感化を受くる者で、母が藥用すれば兒も亦其影響を受け、母食物を愼まざれば兒の體毒を醸す樣になる等小兒身體の健全は母の身體の健不健に依る事が多い。故に母の衛生を第一に考へねばなりませぬ。先母たる者は規則だちたる劇しき用事をしてはならぬ。唯日々哺乳兒の事にのみ注意する樣に致したい然し其が爲に身を懶惰に持ちてはなりませぬ。食物としては充分滋養ある柔かき消化し易き物を用ひ、飲料には爽快した物を選び、酢の物、アルコールを含める物、又は身體に熱を起すやうなものを用ひてはなりませぬ。又滋養物であると云つて肉類ばかりを食て居てもわるい。野菜魚類鳥獸肉類をも取混せて食し、殊に米、麥、饂飩、蕎麥粉、薯粉、芋、砂糖等の澱粉質食料を缺いてはならぬ。餘りに焦げたる者、鹽鹹きもの、酢きもの、辛き物を禁ずるのであります。常に空氣の清潔なる中に居住し、決して密閉したる室内にのみ居てはならぬ。乳房を大切にすべきは勿論でありますが其には餘りに堅く胸を締め、或は壓着してはならぬ又戸外にて妄りに胸を開いてはならぬ。是は空氣中の黴菌が乳に附着して其が小兒の口中に入る恐れがあるからであります。夜間は充分に安眠を要します。晝より夜にかけ、夜より朝にかゝる樣な仕事をしてはならぬ。凡そ感情を動かす事を避け、たゞ夫婦の間の睦じきことを望みます。演劇、見世物などを觀て、悲しき思ひをなし、畏ろしき感じを起すなどは甚だ善くない事であります。憤怒驚愕、非常の喜悦、發熱等ありし時は、先一回乳を搾り出し、然る後心を平靜にしてから一二時間を經て乳を飲まするが宜しいのであります、若も食慾進まず、腹痛み、酸液を吐き、便祕或は下痢の甚しき時などは油斷せず醫師の診察を乞ふべきであります。此等が母としての自身の注意で御座います。

○マクリを飲ますな

生れて一月位は頭重き爲に之を抱ても餘り動かすことは宜しくありません。座敷を變へる事さへ考へ物で、少し動かして乳汁を吐かせることがあつては愈々宜しくありません。又生れた當座七夜迄位

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は薄暗き室に置く方が宜しいのです。さもなければ結膜加多留に罹りて眼眵などの出る事があります。空氣の流通の善き所を撰むべきとは勿論です。世の中には小兒の生れた時、大黄(下痢の藥)と妙糖とを混合したるマクリと稱する物を飲ませますが、是は初生兒の身體に對して大なる害になります、母が小兒を生みたる最初四五日間は脂肪に富みたる黄色の乳が出て、之を小兒に飲ませますれば自然下劑となつて、母の胎内にありて飲み込んだ小兒の排泄物(俗にカニバゞ)は痢るのであります。普通の小兒には生後廿四時間位經ちて後に授乳するが宜しい。母親が脚氣に罹りたる時、梅毒、結核に犯されたる時は乳を飲ましてはなりません小兒が泣き出さば直に乳を飲ませて泣くを止める人がありますが、身體精神上ともに宜しくありません。必ず泣く原因を推量する樣にせねばなりませぬ。

○泣聲の判斷

赤兒の啼聲によりて其原因を極むる事は六ケしい事でありますが、左に多年の實驗によりて得たる者を記します。

(一)悲しくなく苦しくもなく、去りとて大聲でもなく小聲でもなく頻りに泣續くる事があります。かゝる泣方は決して惡き者ではありませぬから大に泣かせて置くが宜しい。嬰兒の泣くは運動の一であります。

(二)早產兒は決して泣かぬ者でありますす痛くなき樣に刺戟を與へて泣かするが宜しい。

(三)腹が空るか咽が乾く時は口を開きて頻りに乳を求むる如く泣きます。然し大に泣かせて宜しい。決して時刻外に乳を與へてはなりませぬ。

(四)口に乳房を嚙み、自ら手の掌を握つたり開いたり、更に兩足を伸したり縮めたり烈しく泣叫ぶ時は必ず腹痛の時です

(五)衣服の紐が固過ぎたり、體に壓でも入つて痛みを覺ゆる時は頻りに首を動かして眉間に八を寄せて力のなき泣聲を出すもので御座います。

(六)氣分の惡しき時はよく寢入らず、泣いて目をねむり、眠りては泣く、即ち間斷的の力なき泣方をするものであります

(七)過度の寒暖によつて泣く時は兒の體に手を觸れて見ればよく判りませう。

(八)腦膜炎の時は泣かずに頻りに四肢を動すと見れば、又突然に泣くこともあり、又同時に腹痛を起すこともあります。

(九)泣聲の時に咳すれば氣管に異狀があるのであります。

以上は初生兒に就てゞあります。

江原評議員及山本理事の歸朝

曩に米國在留邦人慰問の爲め政友會より派遣せられたる本會評議員江原素六氏、並に本會理事山本邦之助の兩氏は、本月一日午後八時横濱入港の春洋丸にて歸朝せられ、盛大なる歡迎を受け、出迎の人々と共に同三十分發列車に搭乘、十時八分無事歸朝せられたり。新橋停車場には板垣伯、山本首相代理加藤秘書官、牧野外相代理阪井秘書官、川原、中村、粕谷、武藤、横田、岩崎、三輪の各代議士其他官吏實業家教育宗教家郞清會員等四百餘名及麻布中學校教員生徒出迎へ、氏の降車と共に一同萬歲を三唱せり。兩氏は出迎人に對し一々挨拶を交換したる後、江原氏は用意の自働車にて麻布本村町に、山本氏は小石川林町の自邸に入れり。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

長壽の秘訣

大隈伯爵談

▲人生の一大不幸

人間は常に心身の鍛錬を圖り健全にして天壽を完うすることに心掛けねばならぬ。一體、父母から與へられた此の貴重な身體を、若氣の誤りで打毀してから後悔しても追付かぬ。若死程人生に不幸なことはない。啻に自己の不幸ばかりでなく、家族は勿論これを大にしては國家の不幸である。然るに之れに反して、生れた人間は完全に發達して働くと云ふことは一番幸福である。而して年寄も子供もその心懸けさへあれば、流行病にも何病にも罹らず、健やかに天壽を完うし得るのである。

▲眞正の意の長壽

然らば長生きをするには何うしたら善いかと云ふと、人間の行ひが善ければ長生きが出來る。さう云ふ意味の長生きは、人間が段々利巧になつて愚痴などは無くなつて了ひ、此の年寄が居るために家族もその村も幸福であると云ふやうになるから、人々は此の年寄の居ることを非常に喜ぶ、すると人の喜ぶのが自分の心を慰め、遂には其れが愈々長生きをする原因となつて來るし。又死ねば極樂往生疑ひなしである。

藤田先生の息正調和の修養法は、心と身體とを完全に發達せしめ、この二つを以て自己の爲めに働くと同時に、又人の爲めにも大に働くと云ふのであるから、此の方法に依つて長壽したものは、最も眞正の意味の長壽となるのである。

▲長壽に禁物とするもの

茲に少しく長壽の秘訣を述べると、憤怒、愚痴、貪慾は長壽の大禁物である。長壽せんとせば常に氣樂な考へを持たなければならぬ。氣樂な考さへあれば何時も心は平和で、物に觸れて怒つたり、悲しんだり、愚痴を云つたりすることはない。例の歌詠み連中が物事を悲しさうに見るのは大間違ひである。

それから物は程よい處を遣ると云ふことが大切である。絕對に酒を飮むなとは云はぬ。全體飮まぬに上越した事はないが、然し少しづゝは飮んでもよい。又喰ふものは何でもよい。自分の舌と相談して、澤庵でも菜葉でも構はぬ。少々消化れぬものでも、胃を素通りなりとして行く。然し大食は甚だ宜しくない、それから夜更し長寢なども禁物で、是れも程と云ふ事を忘れてはならぬ。

一體金持になると、どうかすると樂しむ積りで眞に樂しむ事が出來ない。人が金持を羨やむのは間違ひで、金持は大抵早死をする。幾ら金を遣物にしても、閻魔王は應じない。彼等が斯く樂しまうとしても樂しめず、又長生きをしようとし

ても長生きの出來ないのは、今云ふた程と云ふことを考へないからである。それ故芝居が好きなら、芝居を見るがよい。義太夫が好きなら、義太夫を稽古するもよい。何でも好きな事をやれ、だが年中それぱかり遣つては不可ぬ。

▲閑靜な心が必要

人間は一生懸命に働かねばならぬと同時に、その働いた間には休むと云ふ事が必要であり、又休む間には慰さむ必要があるから、その樂しむ間には氣の向いた樂しみを適宜にやればよい。

そして常に心持を愉快に持たなければならぬ、然し人間は何時も愉快な事ばかりはない、時には苦しむ事もあるが、それをジッと辛抱してゐれば却つて樂しくなつて來る。山などを登ると隨分苦しいが、後から憶ひ出すと愉快だ。又戰爭も戰ふ時には譬ふるに物のない程苦いが、イザ凱旋と云ふ時には、實に愉快なものだ。物事は凡て斯う云ふ理窟のものですから、如何なる苦しみも困つたと云ふてはならぬ。

▲百二十五歳以下は不幸短命

今一つ長壽に禁物とする處は、決して年を取つたと云はぬことである。よく年寄が「年に對して恥しい」と云つて若いものなどゝ一所に遣るのを遠慮するが、實に馬鹿な話である。吾輩などは先きばかり勘定して、百二十五歳以上に生きれば長生きだとし、それ以下ならば不幸短命として居る。すると七八十の人間もまだ先きが六七十年も活動する事が出來て、年を取ずに何時までも若くて居られる。然るに世間には若い年寄が澤山居る。自分から遠慮して年寄になつて終ふ。そこで陰氣なお婆さんだと云つて家族の者には嫌はれる、すると腹が立つたり悲しくなつたりするが、それがために早く死んでしまうやうになるから、常に愉快で若々しい心持で居なければならぬ。『笑ふ門に福來る』で、之れを學者達は樂天主義と云つて居る。

斯樣に若々しい氣で盛に働いて居れば長生きは人に嫌はれないのみならず、眞に世の中のためになつて來るのである。我が百歳餘の主義とするところも、長生をして世の中の利益幸福を計ると共に、年寄自身も愉快に此の世を終ると云ふのである。而して之れが軈て不老長生の秘訣である。

我輩の云ふ事を時々思ひ出せば、諸君は必ず愉快で、家族にも可愛がられ、自分も成佛することが出來ると信ずる。

最穩健なる進歩思想により青年女子の指導に任ず
創刊明治三十七年
女子青年界
一部五錢　一年五十錢
十卷九號（九月一日發行）
東京市牛込區田町三ノ一二
日本基督教女子青年會發行
振替東京二三七二三番

劣惡文學の流行

李　太　夫

(一)公娼私娼の文學可驚多數也

今年の二月初旬突如として和田芳子の「遊女物語」が駿河臺の文明堂から出版された。漸く此社會も色めき初めやうとする春陽季節を控へて居た爲もあつたらうが、此大膽不敵な出版には流石の書肆社會も少なからず驚かされた。

▲**女郎私娼の文學**　女が身賣の抑の行掛から筆を起して貸座敷なるもの〻内幕、朝に夕に送り迎ふる吳客越郎の月旦、遊客と交換した艶書など遊女生活の實況を頗る大膽に露骨に所謂現實生活を赤裸々に曝露して隨分際敏い筆法で自叙傳的に書綴つた女郎文學「遊女物語」が巧く社會の好奇心を煽つて一時盛に賣出したのは少しも不思議ではない、出版界の我利々々亡者共は指を啣へて之を傍觀して居はしない、軈で角海老樓娼妓宮城野の「吉原夜話」(發賣禁止)及同く「遊女日記」が出る、谷口くら女の「苦海三年」前記和田芳子の「續遊女物語」淺草十二階下魔窟の闇黑面を描寫した私娼日記「千束町より」等愈々出で〻愈醜劣卑陋を極め、外に小說體に綴つた亂倫墮落的日記もの、告白もの抔續々出版された。「遊女物語」に暗示されて出たもの及此系統に屬すべき劣惡文學中の主なる者を左に之を擧て見やう。

和田　芳子	遊女物語	神田　文明館
高野　久子	藝者物語	下谷　日吉堂
花島　春子	戀になやみし乙女の自白	神田　盛文館(禁)
山口　天華	青年男女の告白	神田　文陽堂
島田きみ子	迷はされし若き女の告白	淺草　中村書店
武田　櫻桃	小說お酌日記	日本橋　光世館
井淵　柳影	遊女の文學	神田　辰文館
娼妓宮城野	吉原夜話	神田木津書店(禁)
同	遊女日記	淺草　博盛堂
永井　初子	遊女戀物語	淺草　國華堂
伊藤　銀月	女五人	京橋　新橋堂
青柳　有美	ふらんす女	神田　東亞堂
	小說巴里の花	神田　錦葉堂
白頭　巾	新しき女の裏面	淺草　博盛堂
一　敎師	淚のあと(女敎師の手紙)	神田　久文館
熊谷　爲蝶	艶色かゞみ	下谷　大屋書房
	若き女の日記	淺草　岡村書店
田村　西男	春色情くらべ	神田　辰文館
富　美子	看護婦生活	本所　文藝書院
四元　蝶子	若き妻の日記	本鄕　學堂書院
田村　西男	新梅曆丹次郞	日本橋　如山堂
同	同よれ八	同　同
同	同あだ吉	同　同
熊谷　爲蝶	新譯梅ごよみ	日本橋　東雲堂
石川　巖	新譯一代男物語	神田　東紅書院

尚此外他に記者の書き漏らしたものも少からずあらうと思ふが、尚近來また「外妾日記」の原稿を持廻つて居る三文武士があるとは、實に言語道斷な次第だ、以上の内西鶴ものや春水もの〻新譯或は飜案出版も確に女郎文學に誘引されたものであらう

▲**投機的際物出版**　由來出版業と云へば如何にも眞面目な商賣の樣に思はれるけれども、云はゞ一種の投機的職業で當りさへすれば隨分ボロい金儲けも出來る代りに外れたと來たら千部二千部の印本は宛然反古同樣で三文にも買手が無く殊に際物出版に於て甚だしい、それで何が當るか當らないかは愈々蓋を開て見ないと皆目判らないのだから、斯んな難かしい而して危際い商賣はまたとあるまい、で慾に眼の無い際物書肆は何がな一つ羽根が生て飛で行く樣に賣る書籍を出して暴利てやらうと吾劣らず貧弱な腦漿を搾つて考へて居たのだがなかなか普通平凡のものでは不可だ何でも讀者をアッと云はせる樣な毛色の變つた飽迄刺擊の强烈なものでゝも無けりや一時に左樣澤山賣はし無い、其には何でも人情の弱點を狙つた卑猥な劣情挑發的の書籍に限ると云ふ結論に到着する——彼等際物書肆社會の論理からいへば——而して斯くの如く世道人心を糜爛し社會風敎を紊亂して憚らざる劣惡文學書が如何にして出版されるか、此社會での所謂赤本屋とは何か

(二)青年男女を蠱毒する赤本屋

▲**赤本屋の一團**　「桃太郞」だの「かち〳〵山」だの「文福茶釜」だの二錢か三錢の子供相手の繪双紙本を出して薄い儲けで滿足して居た赤本屋と稱れる社會が、淺草を中心として下谷、神田、芝三田と彼此二十軒許りも市內各所に散在つて居るが、平生普通出版業者とは殆ど沒交涉で自ら別社會を形成り、淺草三好町の大川屋といふのが社會での大問屋兼親分株といふ格であるが、固より資本の富裕な者は少いので、何か一つ出版をすると印本を悉皆大川屋へ持つて行て若干かの金を借ると云つた樣な事は彼等社會での慣用手段になつて居る、また通常此社會で出版した書籍は御互同志で賣捌す外に矢張大川屋の手から全國各地の赤本もの取次店に送る仕組になつて居る、斯ふ云ふ事情

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

から親分大川屋は彼等社會にはすばらしく幅を利かして居る。

▲出版界の穢田村　赤本屋社會が紛双紙本や粗末な講談本以外に三文文士の筆に成つた「涙子」とか「新不如歸」とか「續不如歸」とかまた「新已が罪」などゝ他人の作つた賣行の好い小説の書名を利用して――大概四六版三百頁内外で定價金五十錢が止り――正直な地方の讀者相手に狡猾な金儲けをする樣になつたのは餘り古い話では無いが、彼等は近來更に頭角を擡げて遊女もの、藝者もの、戀愛もの、悲哀ものと、徹頭徹尾淫靡な挑發的な甘い好餌を提げて公然に一般出版業者の繩張内に切込んで來たのである、暴利を贏得る爲には其手段を選まず、巧に法律の制裁を潜つて盛に誘惑的書籍を出版して純潔無垢な青年男女の精神を挑發り飽くまで頽廢墮落の奈落に陷れずんば已ざらんとする彼等の惡辣なる手段は眞に憎ても餘りがある、出版界の穢多村と評されても一言もあるまい

▲際敏い處もあり　彼等が仲間以外、東京堂とか東海堂とか、至誠堂、良明堂、林牛等一般書籍の大取次店に持込で手廣く賣捌すには出版すると同時に東京の主なる新聞に廣告を掲載なくては入銀物として引受てはくれないから、仲間で遣繰算段をしてするか或は大問屋に縋つて二段拔位の出版廣告をする、其廣告には「二人以外に洩らさぬ喃々密の如き艶語を聞け」とか「蝶の花に狂ふが如き痴態を見よ」とか「その艶姿嬌態思はず血躍り涙を濺がずんば止まざるべし」とか有ゆる挑發的言辭を羅列して讀者の好奇心を挑發する。

（三）過去一年の出版界
頽廢的擬文學跋扈

茲で昨年の出版界を一瞥しやう昨年の我が出版界は、――特に軟派の方面に於て――要するに頗る振はなかつた。

▲諒闇中の文學　然るに昨年七月、明治天皇の聖徳を錄し奉れる御傳記類並に御大葬儀錄、同寫眞帖、それに御大葬當夜悲壯の殉死を遂げた乃木將軍夫妻の傳記類が先を爭うて續々出版された外には、奇々怪々社會道義を壞亂するを憚らざる彼の「ジゴマ」物が奇を好み嬌を逐ふ人間の弱點に乘じて、無賴制もなく投出されたけれども、それも一時これも一時、忽ち世の識者の指彈を受けて、活動の「ジゴマ」ものは映寫禁止と共に間も無く其跡を絶つた後は、再び元の沈滯狀態に復つた。

▲出版界の暗流　ところが茲に吾々が決して看過すことの出來ない或ものがある、それは、昨年から今年上半期にかけて沈滯せる我が出版界に最も嫌忌すべき何條かの暗流が漂つて居て、其勢ひ凄じく澎湃怒濤の如く讀書界に押しよせた、即ち社會暗黑面を描寫した遊女、藝者、賣婬婦等に關する花柳文學、青年男女の墮落破倫的行爲の忌憚なき告白、社會の或る特殊階級の側面觀的評論、劣情挑發的擬文學、人心を萎微せしむる亡國的悲哀問題の流行であつた。

▲惡影響惡暗示　大傑作大著述の現れない平凡な最近の出版界にも群衆心理的作用に依りて絶えず或る波動の起伏する事はある、偶々毛色の異つた書籍が現れると忽ち一種の暗示的刺戟を出版界に與へる、嘗て德富蘆花氏の「不如歸」菊池幽芳氏の「己が罪」が世に現れて意外の好評を贏得ると「續不如歸」「涙子」「新不如歸」「後の不如歸」「殘る武男」「不如歸前記」とか又「新已が罪」とか云つた樣な前者と殆ど同巧異曲な低級小説が限りなく出版されたの抔は此好適例である、隣舗の暖簾で資本入らずにボロい金儲けをしやうと云ふ狡猾な書肆と、唯小遣錢取の外には眼中何者も無い劣等文士の筆先の力に依つて此種の事實が常に繰返されて居るのだ矢野恒太氏の所謂天下の愚論と銘打つた「藝者論」や新宿の一娼妓和田芳子の「遊女物語」青柳有美氏の「性慾哲學」等は我出版界に惡影響惡暗示を與へたこと大なるものがある。

（四）唾棄すべき出版物
暗黑的時代の反映

▲數字上の出版物　昨年一箇年間に刊行された出版物の總數は四萬五千六百種（書籍、雜誌其他印刷物を含むと云ふ）實に驚くべき多數に上つて居る、之を前年即ち明治四十四年度に於ける出版物總數四萬四千八百十三種に比較すると七百八十七種の增加を示し數字上に於ては隆々年とともに榮え行く帝國文運の趨勢を明かに語つて居る、而して今年になつてから幾何の出版物が世に公にされたかは其筋に於て未だ調査が出來て居ないから判らぬけれど昨年度以上の增率を示して居ることだけは間違ない、一箇年四萬五千六百種と云へば一箇月平均三千八百種に當り毎日約百三十種宛の出版物が一日も休みなしに讀書界に供給されて居る譯である。

▲發賣禁止の增加　けれども唯徒らに數字上の劇增が必ずしも出版界の進步であるとは云へない、昨年度に於て風俗壞亂若しくは秩序紊亂の廉に依りて其筋から發賣頒布禁止及刻版印本差押への處分を行はれたものが實に百七十件に及んで居る、内三件を除く百六十七件は悉く風俗壞亂に屬するものである而して此禁止物の類は一昨年度の三百四十一件（内危險思想に屬する者二十四件）に比べると數の上に於て著るしく

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

減じて居る樣に見えるけれども、是は出版者側の方が追々利巧になつた爲で敢て此種の出版物が減少したものと思はれない。現に今上半期になつて著るしく增加して來た傾向がある。それは何人でも少しく日々の新聞や雜誌の書籍の廣告に注意して見ると容易に首肯かれる事であるがこれは一面數字上にも同樣に現はれて居るから爭はれない事實と見て差支ない。卽ち今年一月から八月十四日に至る七箇月半の間禁止處分を受けた出版物が八十六件（內秩序紊亂十六件と類似曆本が若干含まれて居る）のである。

▲私製葉書の惡用　尙此外に寫眞及猥褻畫の禁止されたものが百三十八件、繪葉書が四百三十八件で前記の普通出版物と併せると、實に六百六十二件といふ驚くべき數に上る、右の內繪葉書は主に此暑中の男女學生を宛込に、海水浴や避暑轉地等を畫題としたもので盛に品行好からぬ學生間に使用される、是等は內務省や警察許りでなく郵便局の方でも發見次第容赦なく其筋へ申告して嚴重に取締る事になつて居る、併し以上擧た禁止の件數は就中最も怪しからぬものに止るのであつて、幸ひに——寧ろ不幸にして——當局の御咎めも受けず白晝公然販賣されて居る風俗壞亂に近い書籍や印刷物は果して幾程あるか知れはし無い斯る唾棄すべき出版物の增加は確に時代の頹廢せる反映である。

（五）科學的研究を標榜する性慾書の亂發

▲厄介極る出版物　劣惡文學と行方は違ふが同じく劣惡出版物に屬するもので靑柳有美氏の「性慾哲學」以前にも無論同種類の書籍が無いではなかつた併し同書が處分を受けて以後、より以上醜惡な書籍か發賣禁止の厄にも罹らず白晝公然書肆の店頭に鬻がれて居るのがザラにあるから不思議だ、畢竟內容や態度の如何に拘はらず年頃著述界の注意人物として其筋から睨まれたのが著者の災難であつた。兎も角も著者が著者であるだけに此書籍が出版界に強大なる暗示を與へたことだけは爭はれぬ事實である、此系統に屬すべき書籍には

靑柳有美	性慾哲學	神田	東亞堂（禁）
村田天籟 齋藤政一	性慾と人生	神田	文明堂
澤田順次郎	兩性問題	京橋	實業之日本社
同	性慾論講話	神田	文明堂
同	性慾左右論	神田	有文堂
河合廉一 澤田順次郎	色情の犯罪	神田	島田書店
北川正惇 藤澤衛彥	色情思想の解剖		
前澤賢一郎 池田傳三郎 澤田順次郎	生殖器の解剖と妊娠論	神田	有文堂
池田要	婚姻の秘訣	京橋	廣文堂
澤田順次郎	獨診自療花柳病院	本鄕	中央書院
秋山金也 吉岡三次郎 澤田順次郎	生殖器の研究と其疾病治療	神田	島田書店

等がある、外に「妊娠論」とか「生殖器篇」とか「懷妊避妊自在法」とか例の「造花機論」一流の淫猥な露骨な書籍は幾何程出て居るか知れない、古い文句だが濱の眞砂と何とやら、此種類のものは從つて禁止すれば從つて後から〳〵出版される、これには內務省あたりでも殆ご持餘して居るらしい。

▲禁止防禦の武器　學力は間口も奧行も相應にあつて、飽まで時代を冷眼視する或意味での痛快な皮肉が閃いて居るのが有美氏の作であるが近來頻に出版される性慾書なるもの丶內で前記澤田氏の「兩性問題」村田、齋藤兩氏の「性慾と人生」の如き比較的眞面目らしいものも無いではないけれども、其多くは表面科學的研究とか性慾教育とか、成るべく聞えの好い文明的な金看板を眞つ向に振翳して居るにも拘らず其內容を一見すると彼の造花機論や生殖新論を幾分現代式に手際好く行つた寧ろ非研究的非教育的な書籍が大多數を占て居る、八百屋的著述業と云ふ外に一向醫學的經歷もない癖に性慾專攻學者など丶盛に賣出して居る某氏の如きは確に此社會で隨一の大家である而して彼等が科學的研究の性慾教育のと標榜するのは、要するに斯うした文字を武器に甘々其筋の制裁を免れやうの魂膽に過ぬので、中には男女の性慾關係を寓意した如何がはしき表紙畫を附したものさへある。

▲厚顏なる製書家　科學的研究といふ性慾敎育といひ、是を口に筆に論述し或は其實施に當るためには須らく其人を得ることが最も重大なる先決的要件でなければならぬ筈である、然るに何等信用すべき學識德望のあるにあらず、また敎育上の經驗あるにあらず、全く附燒刃のブツクメーカーの手で以て不謹愼に露骨に徒らに劣情挑發を目的に捏れ上て置いて研究呼はりや敎育呼はりをする厚顏無恥正に其面に唾すべきである否斯かる陋劣なる徒輩に依て神聖なる性慾敎育問題の前途を汚瀆されるのは甚だ心外千萬である。

（六）現代的趣味の中心、假面せる家庭小說

女優——の二字は確に日本に於る新國字である、而して彼等の輕浮な華奢な物質的生活は極端なる本能主義的思想に滿々たる現代の靑年男女を憧憬せしむるに

十分である。

▲藝妓論と女優論　此新種族を主題として主觀的に或は客觀的に其生活を叙した書籍に桑野桃華氏の「女優論」初瀬浪子東日出子の「女優日記」栗島狭衣氏の「女優艶物語」がある、栗島坂田雨氏の「俳優生活」も亦同一系統に入るべきものだ、また飜譯物にも秋吉無聲氏の「オペラの女優」本間久氏のゾラ原著「女優ナナ」(發賣禁止)花園緑人のツルゲネフ原著「女優」等がある。叙事と小説との相違はあるが、兎に角女優なる者が如何に現代的趣味の中心をなして居るかゞ知れやう此他變つた方面で「お醫者論」や「現代名醫棚卸し」「藝者氣焔帳」「藝者怪物論」「紳士と藝者」「お客論」と云つたやうな書籍が隨分出版されて居る是等の多くが矢野恒太氏の「藝者論」に暗示されたものである事は云ふまでも無い、勿論「藝者論」その者は敢て内容の不健全なものではなく、後日斯る影響を出版界に與へやうとは恐らく著者自らも豫期しなかつた處であらうけれども發行元の博文館が「藝者論」第九版の廣告文中「本書出版以來忽ちにして九版を賣盡しお客論、お醫者論、藝者怪物論、女優論、待合論等之が顰に倣ふもの踵を接す……」云々と吹聽せるに見ても此書が縱令無意識的にもせよ、近來或る特殊階級を主題とせる裏面觀側面觀的群小出版物の俑を作つたと云ふをだけは否認する譯にいくまい。

▲悲哀小説の流行　低級の悲哀小説が盛に發刊される事も看過すべからざる最近出版界の特異の現象である、「涙」とか「妻の悔悟」とか「後の多情多恨」「多情多恨の手紙」「兄妹三人」「操の告白」「華厳の嵐」また歌集體にした「歌集悲しき愛」「歌集涙痕」などがある、是等は家庭小説とか、悲劇小説とか或は少女小説抔銘打て居るのが多く田村西男、植松美佐男抔是等亦本作家中の筆頭株であるが同種類の書籍が漸々多くなると單に悲哀小説位では物足りないと見え此程三田高知堂から出た武田櫻桃氏の「燃ゆるなさけ」などは殊更に大悲哀小説と大の字まで附けて——但四六版四百頁價金六十錢の小本だが、盛に讀者の好奇心を誘惑して居る、惟ふに一時戀愛小説の流行が教育界の八釜しい問題となり、健全なる家庭の讀物の必要が論議された事があるが、利に敏い群小書肆と低級文士等は早くも一策を案出して特に家庭小説、少女小説などの文字を冠して、さも家庭の讀物として相應しい健全な書籍であるらしく裝うて居るのだ、正直な地方の讀者などは譯もなく此種の劣惡小説に欺かれて了ふ、而して斯種の低級悲哀小説が青年少女の思想上に及ぼす影響を想へば竊に戰慄を禁じ得ないものがある。

▲一月後の發賣禁止　本年一月以來發賣禁止出版物の主なる者を調べて見ると大概左の如くである。

青柳有美	性慾哲學	東京	東亞堂
松原藤太	基本戰術	大阪	松原藤太
舟木重雄	奇蹟(二ノ四)	神田	植竹書院
花島春子	戀になやみし乙女の自白	神田	盛文館
森野庄吉	シリンクス(創刊號)	北海道	シリンクス社
夏目宣太郎	暗黑の社會	大阪	夏目書店
勝永德太郎	性慾の研究	同	勝永書店
平塚明子	圓窓より	東京	東雲堂
伊藤銀月	女五人	同	便利堂
山田貞夫	社會の半面	三重	山田貞夫
西田愛之助	男女小觀	大阪	松雲堂
夏目宣太郎	男女交際の秘訣	同	夏目書店
	白樺(四の一六)	東京	洛陽堂
植松美佐男	七人の戀	同	大川屋
後藤美雄	人生(六)	京都	後藤美雄
千家元麿	生活(七月號)	東京	日本洋書協會
高野菊子	吉原夜話	同	木津文湖堂
杉田諒	林影(四)	三重	郷土文藝社
林實	とりで(八月號)	東京	とりで社
本間久	女優ナナ	同	東亞堂
中根駒十郎	新潮(八月號)	同	新潮社

此外に「生殖何」とか「男女一代の樂」とか「粋道秘訣」と云つた種類の書籍が大分ある、大阪邊には所謂猥書專門の書店があり、發賣禁止を却て名譽と心得それを景氣附けにしようと云ふ橫着な書肆さへあるから呆れる。

▲大正新人の覺醒　日露戰役當時緊張の頂點に上り詰た我國民精神が何時とは無しに不知不識退轉し弛緩しつゝ今日に至つたのではあるまいか、嚴格に云へば誤られたる自然派印象派の文學が一面此惡風の源流を爲したとも見られやう、大膽なる現實曝露自己告白、所謂充實せる生活、纖弱なる悲哀文學—其頽廢的氣分と享樂的情調に滿々たる點に於て、今の我社會狀態は宛然平安朝末葉のそれに一致するものがある、吾人は一面彼れ群小書肆と低級文士等の反省を促すと共に、世の學者教育家、宗教家が猛然奮起して大に社會人心を作興し大正新人の指導に努力せんことを望まずには居られぬ、而して此記事が多少とも世の識者の注意を喚起したことを記者は衷心滿足するのである(朝日新聞)

水戸に遊廓設置運動起る

茨城縣水戸市は、これ迄遊廓を有たぬといふ潔い誇りをもつてゐたのに、烈公以來、光榮ある歷史を汚さうとする醜運動が起つたといふ情報に接した。いざといふ時には無論本部から應援するであらうが、五十名からの同地本會々員諸君は機宜を誤る事なからんやう蹶起を乞ふ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番(病院用) 八九八番(自宅用)

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ 二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

▲院長渡歐中の處先般歸朝す

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

修容は婦徳の第一步

端正の精神は端正の容儀に宿る

常にクラブ洗粉を用ゐて氣高き素顔の美を増されよ

朝夕クラブ白粉を用ゐて床しき薄化粧を整へられよ

毎朝クラブ齒磨を用ゐて口齒を淨め精神を爽かにせられよ

斯くして信仰深き御身の品位と健康とを保ち給ふべし

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY